

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 東北財務局長

【提出日】 2022年6月28日

【事業年度】 第8期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

【会社名】 ディー・ティー・ホールディングス株式会社

【英訳名】 DT Holdings, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役会長兼社長 武藤 幸規

【本店の所在の場所】 山形県山形市諏訪町二丁目1番20号

【電話番号】 023-624-7101

【事務連絡者氏名】 取締役 経理財務部担当兼経理財務部長 米田 総一郎

【最寄りの連絡場所】 山形県山形市諏訪町二丁目1番20号

【電話番号】 023-624-7101

【事務連絡者氏名】 取締役 経理財務部担当兼経理財務部長 米田 総一郎

【縦覧に供する場所】 該当する事項はありません

## 1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社では、過年度において「土地再評価差額金」と「利益剰余金」の入り繰り、それに伴う「再評価に係る繰延税金負債」と「繰延税金負債」の入り繰り等が生じていたことが判明したため、誤謬の訂正を行うことと致しました。

これらの訂正により、2020年6月26日に提出いたしました第8期（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部を訂正する必要が生じたので、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の連結財務諸表等については、有限責任監査法人トーマツの監査を受けており、その監査報告書を添付しております。

## 2 【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

##### 1 主要な経営指標等の推移

##### (1) 連結経営指標等

#### 第2 事業の状況

##### 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

##### (1) 経営成績等の状況の概要

##### 財政状態及び経営成績の状況

##### (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

#### 第3 設備の状況

##### 2 主要な設備の状況

##### (2) 国内子会社

#### 第5 経理の状況

##### 1 連結財務諸表等

##### (1) 連結財務諸表

##### 連結貸借対照表

##### 連結株主資本等変動計算書

##### 注記事項

##### (連結貸借対照表関係)

##### 4 担保資産および担保付債務

##### 6 土地の再評価

##### (税効果会計関係)

##### (セグメント情報等)

##### 3. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

##### (1株当たり情報)

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_\_を付して表示しております。なお、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次		第4期	第5期	第6期	第7期	第8期
決算年月		2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
営業収益	(千円)	106,361,512	109,302,742	108,608,724	110,234,091	108,989,345
経常利益	(千円)	1,549,740	2,120,618	1,615,921	2,812,835	1,353,185
親会社株主に 帰属する当期純利益	(千円)	<u>1,339,894</u>	<u>1,311,241</u>	548,400	1,794,641	572,168
包括利益	(千円)	<u>1,041,366</u>	<u>1,429,662</u>	587,635	1,844,349	57,980
純資産額	(千円)	<u>30,540,955</u>	<u>31,877,124</u>	<u>32,341,579</u>	<u>34,046,407</u>	<u>33,938,771</u>
総資産額	(千円)	<u>106,764,384</u>	<u>108,563,108</u>	<u>107,544,028</u>	<u>115,952,269</u>	<u>115,796,806</u>
1株当たり純資産額	(円)	<u>2,230.57</u>	<u>2,326.46</u>	<u>2,366.53</u>	<u>2,493.47</u>	<u>2,485.88</u>
1株当たり当期純利益	(円)	<u>98.41</u>	<u>96.33</u>	40.30	131.91	42.06
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益	(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	<u>28.4</u>	<u>29.2</u>	<u>29.9</u>	<u>29.3</u>	<u>29.2</u>
自己資本利益率	(%)	4.5	4.2	1.7	5.4	1.7
株価収益率	(倍)	-	-	-	-	-
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	2,326,992	3,290,853	6,307,916	3,192,833	3,007,978
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	625,215	1,621,561	1,355,086	8,632,436	6,715,043
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	4,443,273	1,070,121	4,443,124	4,869,251	2,145,912
現金及び現金同等物 の期末残高	(千円)	7,221,747	7,812,548	8,322,761	7,751,893	6,190,740
従業員数 〔外、平均臨時 雇用量〕	(名)	5,932 〔1,241〕	5,890 〔1,432〕	5,940 〔1,458〕	5,832 〔1,662〕	5,777 〔1,667〕

- (注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。  
 2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式がありませんので記載しておりません。  
 3. 株価収益率は、非上場・非登録につき記載しておりません。  
 4. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第7期の期首から適用しており、第6期以前に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期
決算年月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年3月
営業収益 (千円)	257,205	257,205	783,672	288,732	355,821
経常利益 (千円)	171,054	162,146	677,900	204,760	267,419
当期純利益 (千円)	168,891	158,656	52,080	207,177	265,600
資本金 (千円)	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000
発行済株式総数 (株)	13,618,700	13,618,700	13,618,700	13,618,700	13,618,700
純資産額 (千円)	14,064,710	14,085,697	14,000,302	14,070,370	14,171,624
総資産額 (千円)	21,298,913	25,228,366	27,356,055	26,354,652	27,231,368
1株当たり純資産額 (円)	1,033.11	1,034.96	1,028.96	1,034.31	1,041.98
1株当たり配当額 (内、1株当たり 中間配当額) (円)	10 (-)	10 (-)	10 (-)	12 (-)	10 (-)
1株当たり当期純利益 (円)	12.40	11.66	3.83	15.23	19.53
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.0	55.8	51.2	53.4	52.0
自己資本利益率 (%)	1.2	1.1	0.4	1.5	1.9
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	80.6	85.8	261.3	78.8	51.2
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕 (名)	1 〔-〕	1 〔-〕	1 〔-〕	1 〔-〕	- 〔-〕

- (注) 1. 営業収益には、消費税等は含まれておりません。  
2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、潜在株式がありませんので記載しておりません。  
3. 株価収益率は、非上場・非登録につき記載しておりません。

## (最近5年間の株主総利回りの推移)

当社は非上場・非登録につき記載しておりません。

## (最近5年間の事業年度別最高・最低株価)

当社株式は非上場でありますので、該当事項はありません。

## 2 【沿革】

年月	概要
2012年3月	太平興業(株)および第一貨物(株) (以下「両社」といいます。) は、両社の共同持株会社設立のための共同株式移転計画書を作成 両社の定時株主総会において、共同株式移転の方法により当社を設立し両社がその完全子会社となることについて承認決議 両社の共同株式移転により当社設立
6月	
10月	
2013年12月	東京都千代田区に連結子会社、D T商事(株)を設立
2014年10月	タイ王国サムットプラカンに連結子会社、JAPAN BODY MANUFACTURING CO.,LTD.を設立
2015年7月	本店所在地を東京都江東区より、山形県山形市へ移転
2019年3月	JAPAN BODY MANUFACTURING CO.,LTD.の全株式をASAHI GROUP INTERNATIONAL CORPORATIONへ譲渡

### 3 【事業の内容】

当社グループは当社、子会社17社および関連会社4社により構成されており、物流関連事業、自動車販売事業および不動産事業を中心にその他事業として情報関連事業、燃料販売事業、トラック整備事業を主な内容としております。

当社グループの事業内容およびセグメントとの関連は次のとおりであります。なお、以下に示す区分は、セグメントと同一区分であります。

#### 物流関連事業

子会社第一貨物(株)は、貨物自動車運送事業を主力に、貨物利用運送事業、物流システムの設計・運用および管理の受託に関する事業等を行っており、同事業を営む子会社間と連絡を密にし、国内において広範囲な輸送網を形成して行っております。また、中国現地法人であります関連会社上海特耐王第一物流有限公司も物流事業を行っております。

#### 自動車販売事業

子会社太平興業(株)は、三菱ふそうトラック・バス(株)製のトラック・バスの販売事業を主力に同販売に関連した部品販売および修理業等を行っており、子会社山形三菱自動車販売(株)は、三菱自動車工業(株)製の乗用車の販売および修理業等を行っております。また、子会社D T商事(株)は、中古自動車の国内および輸出販売等を行っております。

#### 不動産事業

子会社第一貨物(株)、子会社太平興業(株)および子会社啓明興業(株)は、不動産賃貸業、不動産売買・賃貸借の仲介業等を行っております。

#### その他の事業

##### (情報関連事業)

子会社日本アバカス(株)および子会社太平興業(株)は、コンピュータ関連機器の販売、ソフトウェアの開発・販売業等を行っております。

##### (燃料販売事業)

子会社太平興業(株)ほか1社は燃料の販売を行っております。

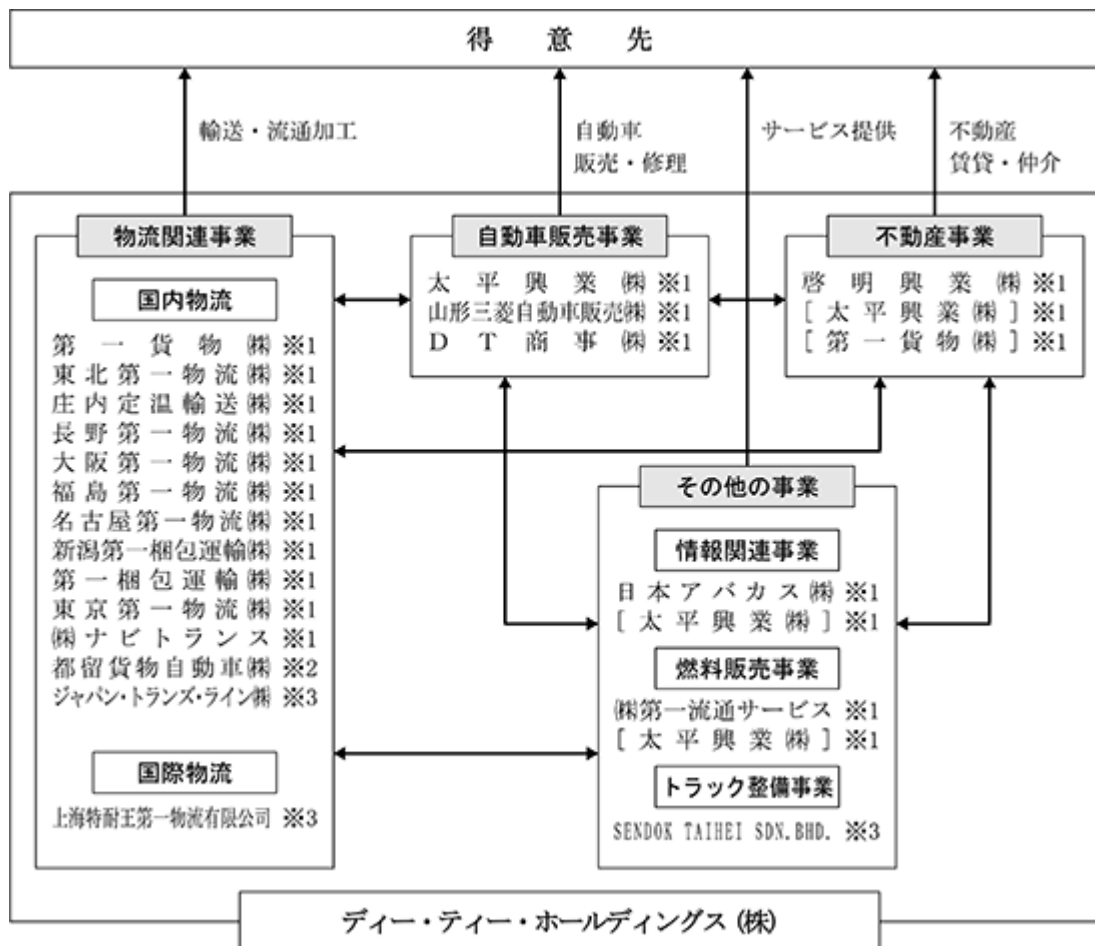
##### (トラック整備事業)

マレーシア現地法人であります関連会社SENDOK TAIHEI SDN.BHD.は、トラック整備事業を行っております。

##### (その他)

子会社第一貨物(株)、子会社太平興業(株)および子会社東北第一物流(株)ほか3社は、損害保険代理業を行っております。

以上に述べた事業の系統図は次のとおりであります。



- (注) 1 連結子会社であります。(17社)  
2 持分法適用関連会社であります。(1社)  
3 持分法非適用関連会社であります。(3社)

## 4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 太平興業(株) (注) 2, 5	東京都 千代田区	100,000	自動車販売事業	100.0	同社の経営指導を行っております。 当社の業務運営を委託しております。 同社より資金の借入を行っております。 役員の兼任 7 名
第一貨物(株) (注) 2, 5	山形県 山形市	100,000	物流関連事業	100.0	同社の経営指導を行っております。 当社の業務運営を委託しております。 同社へ資金の貸付を行っております。 役員の兼任 6 名
D T 商事(株)	東京都 港区	30,000	自動車販売事業	100.0	同社の経営指導を行っております。 役員の兼任 4 名
(株)ナビトランス	神奈川県 横浜市中区	40,000	物流関連事業	100.0 [ 100.0 ]	役員の兼任 1 名
長野第一物流(株)	長野県 千曲市	50,000	物流関連事業	99.8 [ 99.8 ]	
(株)第一流通サービス (注) 3	長野県 千曲市	10,000	その他の事業	99.8 [ 99.8 ]	
東京第一物流(株)	埼玉県 八潮市	50,000	物流関連事業	99.6 [ 99.6 ]	
山形三菱自動車販売(株)	山形県 山形市	50,000	自動車販売事業	99.5 [ 99.5 ]	役員の兼任 2 名
福島第一物流(株)	福島県 須賀川市	30,000	物流関連事業	99.0 [ 99.0 ]	役員の兼任 1 名
第一梱包運輸(株)	宮城県 名取市	30,000	物流関連事業	99.0 [ 99.0 ]	役員の兼任 1 名
新潟第一梱包運輸(株)	新潟県 新潟市東区	50,000	物流関連事業	99.0 [ 99.0 ]	
東北第一物流(株)	山形県 山形市	91,000	物流関連事業	99.0 [ 99.0 ]	役員の兼任 1 名
大阪第一物流(株)	大阪府 大東市	50,000	物流関連事業	99.3 [ 99.3 ]	
名古屋第一物流(株)	愛知県 岡崎市	50,000	物流関連事業	96.0 [ 96.0 ]	
啓明興業(株)	東京都 千代田区	45,000	不動産事業	90.0 [ 90.0 ]	
日本アバカス(株) (注) 3	山形県 山形市	50,000	その他の事業	89.6 [ 89.6 ]	役員の兼任 1 名
庄内定温輸送(株) (注) 3	山形県 酒田市	30,000	物流関連事業	66.0 [ 66.0 ]	
(持分法適用関連会社) 都留貨物自動車(株)	山梨県 富士吉田市	85,200	物流関連事業	34.4 [ 34.4 ]	役員の兼任 1 名

(注) 1. 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。



3. (株)第一流通サービスは長野第一物流(株)の完全子会社、日本アパカス(株)は啓明興業(株)の子会社(議決権所有割合89.6%)、庄内定温輸送(株)は東北第一物流(株)の子会社(議決権所有割合66.0%)であります。
4. 議決権の所有(被所有)割合欄の〔内書〕は、間接所有割合であります。
5. 以下の会社は営業収益(連結会社間の内部営業収益を除く)の連結営業収益に占める割合が10%を超えています。

名称	主な損益情報				
	営業収益 (千円)	経常利益 (千円)	当期純利益 (千円)	純資産 (千円)	総資産額 (千円)
太平興業(株)	27,897,157	550,068	116,896	12,106,106	34,458,886
第一貨物(株)	73,773,750	607,667	395,840	23,559,333	79,340,122

## 5 【従業員の状況】

## (1) 連結会社の状況

2020年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
物流関連事業	5,041 〔1,566〕
自動車販売事業	677 〔94〕
不動産事業	5 〔2〕
その他の事業	54 〔5〕
合計	5,777 〔1,667〕

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。  
2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

## (2) 提出会社の状況

提出会社は純粋持株会社であり、従業員はおりません。

## (3) 労働組合の状況

物流関連事業は、子会社第一貨物㈱および子会社東北第一物流㈱、福島第一物流㈱、新潟第一梱包運輸㈱、第一梱包運輸㈱には、第一連合労働組合が組織されており、全国交通運輸労働組合総連合に属しております。また、長野第一物流㈱には長野第一物流労働組合が組織しております。組合員数は4,377名でユニオンショップ制であります。

自動車販売事業は、子会社太平興業㈱および子会社山形三菱自動車販売㈱には、それぞれ太平興業労働組合、山形三菱自動車労働組合が組織されており、全三菱自動車・三菱ふそう労働組合連合会に属しております。組合員数は551名でユニオンショップ制であります。

当社およびそのほかの連結子会社には、労働組合は組織されておられません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

日本経済の今後の見通しは、期初から顕著になってきた景気後退の懸念とともに、未曾有の新型コロナウイルスのパンデミックによる混乱がいつの時点で収束するのか全く見通しが立たず、今後国内外経済へのダメージが深刻化するのには必至とされます。また、労働力不足の常態化や4月より中小企業に適用される時間外労働の上限規制への対応など難しい経営課題が山積しております。

そのような状況下、当社グループはいかなる環境の変化の中にあっても市場競争に勝ち残るため、顧客志向の経営を着実に推し進めるとともに、事業の多様化と効率化を追求し連結業績の拡大と企業体質の強化に努めて参ります。

主要事業の対処すべき課題は次のとおりであります。

#### （物流関連事業）

2020年度の国内貨物総輸送量は、新型コロナウイルス感染症が経済に与える影響を見通すことが非常に難しい状況にあります。消費・生産・建設関連貨物全てが大幅な減速基調となることは避けられず、景気後退局面がより鮮明になると予測されております。また、貨物自動車運送事業におきましては慢性化しているドライバー不足問題や、労働時間規制をはじめとする働き方改革への対応、そしてIoTの伸展に伴う輸送過程のデジタル化に素早く対応していかなければ、輸送品質のみならず輸送サービスの低下にも拍車がかかり、衰退の道を辿ると懸念されます。

このような市場環境の中、物流関連事業の中核子会社である第一貨物株式会社は、物流を通じ日本の経済活動に欠くことのできない重要な責務を担いつつ、顧客のニーズに深く寄り添った輸送サービスを提供し続けることが使命であるとの認識を新たに、2年目となります第12次中期計画に基づく諸施策を確実に実行し生産性向上を推し進め、このかつてない困難な局面を一丸となって克服し成長を遂げるよう、企業基盤の更なる強化と輸送品質の改善向上に邁進して参ります。

#### （自動車販売事業）

新型コロナウイルス感染症が日本経済に与える影響として半期で2.9兆円という数字が挙げられており、半期でGDPを1%押し下げることと推定され、その収束如何によっては、経済活動の落ち込みがさらに深刻化することが想定されます。

一方、自動車販売事業の中核子会社である太平興業株式会社の営業エリアにおける地域経済は、人口および消費の減少が全国より強まる傾向にあり、地域経済の停滞促進は避けられない状況にあります。それらを背景にユーザーである運送事業者は車両保有の見直し等効率化を加速させることが予想され、2020年度もトラックの保有台数減少は進み、総需要においても全国より悪化することが懸念されます。

このような市場環境の中、「工場運営の強化」「新車販売プロセスの最適化」「活力ある制度および組織・体制の構築と効率的運営の推進」の3項目を重点推進事項と位置付け、「変化に順応する企業」構築に向けた取組みを加速させます。更に基盤事業であるアフターサービスおよび他の4業（新車・保険・部品・中古車）の販売強化を目指すとともに、社内システムおよびインフラ整備による業務の効率化と管理体制の拡充を推進して参ります。

## 2 【事業等のリスク】

当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用会社）の主要事業の経営成績に影響を及ぼす可能性のあるリスクは以下のとおりであります。

### （物流関連事業）

貨物自動車運送事業を主たる業務としており、今後の国内景気動向等により景気減速に伴う国内貨物輸送量の低迷により、業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

貨物自動車運送事業を主たる業務としているため、自動車の燃料を多量に消費いたしますが、地政学的問題の発生や為替相場の動向、開発途上国の燃料需要増加等に伴い燃料費が高騰し、大きなコストアップ要因になる可能性があります。

国内貨物輸送量は、ここ20年間漸減傾向にある一方、経済規制緩和に伴い貨物自動車運送事業者数は逆に増加しており、過当競争が年々激化しております。

この過当競争に打ち勝つべく、輸送品質の向上やサービスレベルアップを図っておりますが、消費者の判断如何では、取扱貨物量が減少する可能性があります。

交通事故防止や環境規制など社会規制の激化に伴うコスト増リスクがあります。

### （自動車販売事業）

貨物自動車運送事業者、建設関連事業者および旅客運送事業者等へのトラック・バス販売を中核業務としており、今後の国内景気動向等による新車需要の変化が、業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

営業エリアにおける地域経済は、労働人口の減少を背景に縮小傾向で推移するものと想定されトラック・バス在籍台数減少による部品販売、修理在庫台数減少が、部品・修理売上高、利益の減少に繋がる可能性があります。

新車販売事業は、三菱ふそうトラック・バス(株)および三菱自動車工業(株)と特約販売店契約を締結しており、商品のモデルチェンジ、排ガス規制対策、リコール等については、同社の主導により実施しており、商品等の供給体制の動向によっては、業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

### （グループ全体）

当社グループの主要な事業である貨物自動車運送事業および自動車販売事業については、毎年新卒者を中心に貨物自動車運送事業はドライバー、自動車販売事業は直接員（セールス・メカニック）を定期的に採用し、人材確保に努めておりますが、今後少子高齢化の進行により人材確保が厳しさを増すことが想定され、このことが業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループの資金調達は間接金融主体に行っているため、金利の変動は当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループの主要な事業である貨物自動車運送事業は顧客の利便性と輸送品質向上、自動車販売事業は車両整備などの顧客ニーズとサービス向上のため、多数の拠点を設けております。

当社グループの保有資産の価値の大幅低下、または事業の収益性の低下等により固定資産の減損会計による減損処理が必要になった場合、業績および財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

大規模自然災害等により被害を被った場合、業務が停滞し業績や財政状態に大きな影響を与える可能性があります。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による、急激な経済活動の縮小およびこれに伴う経済環境の悪化により、当社グループの将来の収益およびキャッシュ・フローに影響を及ぼし、見積もられた金額と事後的な結果との間に乖離が生じる可能性があります。

（注）将来に関する事項につきましては、当連結会計年度末日現在において判断したものであります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社、連結子会社及び持分法適用会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、所得環境の改善等を背景に内需を中心として堅調にスタートしたものの、後半は一転、消費税増税による個人消費の落ち込みや多発した自然災害の影響、更には暖冬による季節商品の販売不振の影響もあり、総じて弱含みに推移しました。

一方、世界経済は米中貿易摩擦などによる中国経済の減速、英国のEU離脱問題による欧州経済の不安要素、また、2019年末に発生した新型コロナウイルス感染症の世界的流行拡大も加わり、先行きは極めて不透明な状況が続きました。このような環境の中、当社グループは各部門におきまして営業力強化による取引顧客の拡大を図るとともに、業務改革による経費の削減、および経営全般の業務効率・生産性向上に取り組みました。

その結果、営業収益が108,989,345千円（前年同期比98.9%）、経常利益が1,353,185千円（前年同期比48.1%）、親会社株主に帰属する当期純利益が572,168千円（前年同期比31.9%）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

##### （物流関連事業）

物流関連事業の主力事業である当期の貨物自動車運送事業は、上期は消費・生産関連貨物の緩やかな荷動きが見られたものの、下期には消費税増税や多発した自然災害、更には新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、国内貨物総輸送量は大きく落ち込む状況となりました。

そのような環境下において、顧客よりご理解を得ながら取り組みました取引条件改善の効果により、積年の課題であったトラック系の採算改善が進みましたが、景気の後退により前年の物量を確保することはできず、特積み事業は輸送量および売上げ共に前期を大きく下回りました。

一方、収支に直結する燃料費は、期間を通じて原油価格が低位で推移したこともあり通年では予算を下回りました。しかしながら、深刻化するドライバー不足に起因する外部委託等の諸経費増加が採算性の著しい低下を招き、遺憾ながら収支を圧迫しました。

また、ロジスティクス事業におきましては、大口顧客との取引が順調に推移しましたものの、経費抑制に歯止めがかからず収支面では前期を下回りました。

その結果、物流関連事業の業績は、営業収益79,173,649千円（前年同期比98.3%）、営業利益は817,986千円（前年同期比33.4%）となりました。

##### （自動車販売事業）

自動車販売事業の主力であるトラック・バス分野は、労働人口の減少やトラック総需要が低位で推移したため、メーカー各社間の販売競争は一層厳しさを増す状況となりました。

そのような環境下において、各部門の実績を前年と比較してみると、車輛販売部門は、新車は大型車両の販売増加により売上高・売上利益ともに増加となりました。部品部門は、保有台数の低下により売上高は減少したものの、販売条件の改善により売上利益は増加となりました。整備部門は、一般修理の入庫減少が要因となり売上高・売上利益ともに減少となりました。

一方営業経費は、従業員の減少に伴う人件費の減少や拡販費等の低下により減少となりました。

その結果、自動車販売事業の業績は、営業収益30,089,401千円（前年同期比102.0%）、営業利益は457,272千円（前年同期比252.0%）となりました。

##### （不動産事業）

不動産事業による、営業収益は711,759千円（前年同期比114.1%）、営業利益は205,907千円（前年同期比90.4%）となりました。

##### （その他の事業）

情報関連事業および燃料販売事業等による、その他の事業全体の営業収益は3,057,974千円（前年同期比97.7%）、営業利益は243,218千円（前年同期比106.1%）となりました。

当連結会計年度末における資産合計は115,796,806千円であり、前連結会計年度末に比べて155,462千円減少いたしました。負債合計は81,858,034千円であり、前連結会計年度末に比べて47,826千円減少、純資産は33,938,771千円であり、前連結会計年度末に比べて、107,635千円減少いたしました。

#### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金および現金同等物は6,190,740千円であり、前連結会計年度末と比べて1,561,152千円(20.1%)減少いたしました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益、減価償却費および減損損失等により3,007,978千円(前年同期比94.2%)の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により6,715,043千円(前年同期比77.8%)の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、預り金の受入による収入等により2,145,912千円(前年同期比44.1%)の増加となりました。

#### 生産、受注及び販売の実績

当社グループは、その主要な事業である物流関連事業をはじめ、受注生産の形態をとらないものが多く、セグメントごとに生産規模および受注規模を金額あるいは数量で示すことはしておりません。

なお、販売の状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要」におけるセグメントの業績に関連付けて示しております。

#### a. 売上実績

当連結会計年度における売上実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同期比(%)
物流関連事業	79,140,419	98.3
自動車販売事業	27,949,936	100.6
不動産事業	229,790	161.9
その他の事業	1,669,199	92.8
合計	108,989,345	98.9

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. セグメント間の取引については相殺消去しております。

## (2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

## 重要な会計方針および見積り

当社グループ（当社、連結子会社および持分法適用会社）の連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表の作成にあたって、会計処理の統一は勿論、主要事業である物流関連事業は、労働集約産業であるための多額の退職給付に係る負債は会計基準に基づき適切に計上しております。なお、子会社太平興業(株)は2001年3月に土地の再評価を行っております。

## 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

## a. 財政状態の分析

当連結会計年度末における資産合計は115,796,806千円であり、前連結会計年度末に比べて155,462千円減少いたしました。内訳は流動資産の減少が4,100,502千円、固定資産の増加が3,945,040千円であります。

流動資産の減少は、現金及び預金が1,509,149千円、受取手形及び売掛金が1,005,726千円、たな卸資産が1,309,047千円、それぞれ減少したこと等によるものであります。固定資産の増加は、車両運搬具（純額）が3,097,758千円、建設仮勘定が2,175,731千円、それぞれ増加した一方で、建物及び構築物（純額）が872,570千円減少したこと等によるものであります。

当連結会計年度末における負債合計は81,858,034千円であり、前連結会計年度末に比べて47,826千円減少いたしました。内訳は流動負債の減少が2,868,326千円、固定負債の増加が2,820,499千円であります。

流動負債の減少は、短期借入金が2,500,000千円、その他が1,239,877千円、それぞれ増加した一方で、支払手形及び買掛金が2,654,358千円、1年内返済予定の長期借入金が2,518,133千円、それぞれ減少したこと等によるものであります。固定負債の増加は、長期預り金が3,052,318千円増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末における純資産は33,938,771千円であり、前連結会計年度末に比べて、107,635千円減少いたしました。これは、親会社株主に帰属する当期純利益により572,168千円増加した一方で、剰余金の配当により163,242千円減少、その他包括利益累計額が575,216千円減少したことによるものであります。なお、自己資本比率は、29.2%であり、前連結会計年度に比べて0.1ポイント減少しました。

## b. 経営成績の分析

「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態及び経営成績の状況」を参照願います。

## (a) 営業収益

当連結会計年度の営業収益は、108,989,345千円となりました。

## (b) 営業利益

当連結会計年度の営業利益は、1,698,424千円となりました。

## (c) 営業外損益

当連結会計年度の営業外損益は、345,239千円の損失（純額）となりました。主なものは支払利息419,889千円であります。

以上の結果、経常利益は1,353,185千円となりました。

## (d) 特別損益

当連結会計年度の特別損益は、58,347千円の損失（純額）となりました。主なものは減損損失263,753千円であります。

以上により、税金等調整前当期純利益は1,294,837千円、親会社株主に帰属する当期純利益は572,168千円となり、1株当たり当期純利益金額は42.06円となりました。

## c. 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況については、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」を参照願います。

当社グループは間接金融を主体としており、取引金融機関との連絡を密に行い、財務状態は良好であります。設備投資については、自己資金及び金融機関からの借り入れ等による資金調達で対応して行くこととしており、突発的な資金需要に対しては、迅速かつ確実に資金を調達できるよう、コミットメントライン契約及び当座借越契約を締結し、流動性リスクに備えております。

## d. 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因については、「2 事業等のリスク」を参照願います。

## e. 中長期的な経営戦略について

当社グループの中長期的な経営戦略については、「1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」を参照願います。

## 4 【経営上の重要な契約等】

## (1) 経営指導及び業務運営負担に関する覚書

当社は、2015年4月1日付で連結子会社である第一貨物㈱、太平興業㈱およびD T商事㈱に対する経営指導及び業務運営負担契約に関する覚書を締結しております。

## (2) 業務委託契約

当社は、2012年10月9日付で当社の運営に係る業務の一部を連結子会社である第一貨物㈱および太平興業㈱に委託する契約を締結しております。

なお、2014年4月1日付で上記契約について見直しを実施しております。

## 5 【研究開発活動】

該当事項はありません。



### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、多様化する荷主ニーズへの対応と質の高い輸送サービスを提供するため、輸送能力の拡充および環境対策等への設備投資並びに自動車整備の効率化等を目的とした設備投資を継続的に実施しております。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

当連結会計年度の設備投資の総額は8,549,965千円であり、セグメントごとの設備投資について示すと、次のとおりであります。

##### (1) 物流関連事業

当連結会計年度の主な設備投資は、輸送能力拡充を目的とした連結子会社である第一貨物(株)山形支店の移転用地取得、東京社宅の移転新築他、高い輸送サービスの提供および環境対策等に対応するため車両を中心とする総額4,756,575千円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

##### (2) 自動車販売事業

当連結会計年度の主な設備投資は、安定した車両の供給およびトラック輸送における生産性の向上を目的としたグループ会社向け車両の購入（オペレーティングリース）等を中心とする総額3,788,280千円の投資を実施いたしました。

なお、重要な設備の除却又は売却はありません。

##### (3) 不動産事業

重要な設備投資や除却または売却はありません。

##### (4) その他の事業

重要な設備投資や除却または売却はありません。

## 2 【主要な設備の状況】

## (1) 提出会社

持株会社であり、主要な設備はありません。

## (2) 国内子会社

2020年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
				建物 及び 構築物	機械 装置	車両 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
太平興業(株)	本社 (東京都千代田区) 外	自動車販売事業外	事務所および整備工場外	5,888,542	283,697	6,065,997	7,121,066 (221,736)	122,572	40,886	19,522,763	519
第一貨物(株)	本社 (山形県山形市)外	物流関連事業外	物流ターミナルおよび整備工場外	13,233,866	101,720	481,723	45,453,504 (748,725)	667,428	2,496,592	62,434,835	4,207
DT商事(株)	本社 (東京都港区)	自動車販売事業	事務所外	1,801		48,925	( )	27,247	2,822	8,079	9
(株)ナビトランス	本社 (神奈川県横浜市中区)	物流関連事業	車両外			0	( )			0	7
長野第一物流(株)	本社 (長野県千曲市) 外	物流関連事業	事務所外	531,488	1,289	27,477	244,578 (14,763)	168,323	16,276	989,434	173
(株)第一流通サービス	本社 (長野県千曲市) 外	その他の事業	事務所外	530	901	0	159,874 (12,393)			161,305	1
東京第一物流(株)	本社 (埼玉県八潮市) 外	物流関連事業	車両外	123,781		19,647	( )		4,138	147,566	154
山形三菱自動車販売(株)	本社 (山形県山形市) 外	自動車販売事業	事務所および整備工場	848,212	51,363	127,523	1,706,366 (38,063)		26,412	2,759,878	149
福島第一物流(株)	本社 (福島県須賀川市) 外	物流関連事業	事務所外	13,858	185	7,858	5,746 (585)	7,447	173	35,270	67
第一梱包運輸(株)	本社 (宮城県名取市) 外	物流関連事業	事務所外	12,220	1,856	21,437	31,300 (2,087)		1,706	68,521	81
新潟第一梱包運輸(株)	本社 (新潟県新潟市東区)	物流関連事業	車両外	74		261	( )		217	553	34
東北第一物流(株)	本社 (山形県山形市) 外	物流関連事業	事務所外	169,231	991	18,593	420,123 (20,994)	88,776	1,501	699,217	191

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)	
				建物 及び 構築物	機械 装置	車両 運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他		合計
大阪第一物流(株)	本社 (大阪府 大東市) 外	物流関連 事業	車両 外	188		0	( )	7,423	3,895	11,507	39
名古屋第一物流(株)	本社 (愛知県 岡崎市)	物流関連 事業	車両 外	2,554		570	( )		7,204	10,329	70
啓明興業(株)	本社 (東京都 千代田区)	不動産 事業	土地 外	1,433			14,015 (48)	1,024	1,205	17,678	5
日本アパカス(株)	本社 (山形県 山形市) 外	その他の 事業	事務所 外	65,923		2,659	32,068 (499)		6,086	106,738	53
庄内定温輸送(株)	本社 (山形県 酒田市)	物流関連 事業	車両 外		334	406	( )	8,229		8,970	18

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は工具、器具及び備品と建設仮勘定であります。また、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 上記の他、主要な賃借およびリース設備として、以下のものがあります。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	数量	年間リース料 (千円)	リース契約 残高 (千円)
第一貨物(株)	山形支社 (山形県山形市)外	物流関連事業	車両 (オペレーティング リース)	1,598台	2,567,487	7,566,940
第一貨物(株)	大宮支店 (埼玉県さいたま市 岩槻区)外	物流関連事業	ターミナル、 建物、倉庫他	4ヶ所	774,516	3,141,426

(注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3. 帳簿価額は単体ベースの残高であり、連結時の時価評価及び内部取引に伴う未実現利益について、調整前の金額を記載しております。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当社グループの設備投資については、輸送計画、需要予測、利益に対する投資割合等を総合的に勘案して計画しております。設備計画は原則的に連結子会社各社が個別に策定しておりますが、グループ全体で重複投資とならないよう、提出会社を中心に調整を図っております。

当社グループの重要な設備の新設、除却等の計画は、以下のとおりであります。

#### (1) 重要な設備の新設等

会社名	所在地	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達方法	取得年月	完成後の 増加能力
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
第一貨物株	東京都江戸川区	物流関連 事業	従業員用 社宅	5,198	2,514	自己資金及び 借入金	2020年9 月	
第一貨物株	埼玉県吉川市	物流関連 事業	整備工場	2,873	1,794	自己資金及び 借入金	2021年4 月	整備能力
第一貨物株	埼玉県八潮市	物流関連 事業	従業員用 社宅	714	22	自己資金及び 借入金	2021年4 月	
第一貨物株	山形県山形市	物流関連 事業	土地・建 物	4,188	780	自己資金及び 借入金	2021年10 月	輸送能力
第一貨物株	東京都江東区	物流関連 事業	土地・建 物	12,722	1,331	自己資金及び 借入金	2022年1 月	輸送能力

(注) 上記の金額に消費税等は含まれておりません。

#### (2) 重要な設備の売却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

## 1 【株式等の状況】

## (1) 【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

## 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2020年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (2020年6月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,618,700	13,618,700	非上場・非登録に つき、該当事項は ありません。	単元株式数は400株でありま す。
計	13,618,700	13,618,700		

## (2) 【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2014年1月31日 (注)	5,891,676	13,618,700	-	2,000,000	-	500,000

(注) 自己株式の消却による減少であります。

## (5) 【所有者別状況】

2020年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数400株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		8		56			956	1,020	
所有株式数(単元)		5,488		9,388			18,880	33,756	116,300
所有株式数の割合(%)		16.26		27.81			55.93	100.00	

(注) 自己株式17,996株は、「その他の法人」に44単元、「単元未満株式の状況」に396株含まれております。

## (6) 【大株主の状況】

2020年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
武藤 幸規	東京都大田区	906	6.66
三菱ふそうトラック・バス(株)	神奈川県川崎市幸区鹿島田一丁目1番2号	693	5.10
三菱UFJ信託銀行(株)	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号	648	4.76
(株)きらやか銀行	山形県山形市旅籠町三丁目2番3号	647	4.76
渋谷 邦雄	神奈川県藤沢市	446	3.28
石應 洋	山形県天童市	431	3.17
WMグロース4号投資事業有限責任組合	東京都千代田区麹町三丁目2番地	388	2.86
山路 陽子	神奈川県逗子市	377	2.78
武藤 幸隆	東京都世田谷区	366	2.70
武藤 大二郎	神奈川県川崎市中原区	263	1.94
計		5,165	38.01

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2020年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 17,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,484,800	33,712	
単元未満株式	普通株式 116,300		
発行済株式総数	13,618,700		
総株主の議決権		33,712	

(注) 単元未満株式のうち396株は自己株式であります。

## 【自己株式等】

2020年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ディー・ティー・ ホールディングス(株)	山形市諏訪町二丁目1番20 号	17,600	-	17,600	0.13

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

## (1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	2,872	1,104,440
当期間における取得自己株式	325	126,750

(注) 当期間における取得自己株式には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

## (4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式				
その他( )				
保有自己株式数	17,996		18,321	

(注) 当期間における保有自己株式には、2020年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。



### 3 【配当政策】

当社は、当期の利益、経営環境への対応および企業体質強化のための内部留保との調和を図りつつ安定的な配当を継続していくことを基本方針とし、安定配当の実現に向けた経営基盤づくりを行って参ります。

当社の剰余金の配当は、株主総会を決定機関とした年1回の期末配当を基本的な方針としております。なお、取締役会の決議により中間配当ができる旨を定款で定めております。

また、持株会社である当社は、完全子会社である第一貨物㈱および太平興業㈱からの配当収入を主な収入源とし、株主の皆様へに配当することを原則としております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、期末配当のみで1株当たり10円としております。

内部留保の用途につきましては、今後の事業展開への備えとして投資していくこととしております。

(注) 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2020年6月25日 定時株主総会	136,007	10

#### 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

###### 会社の機関の内容

###### イ．取締役会の状況

取締役会は毎月開催し、重要な業務執行の決定や経営の基本方針に関する事項について審議を行っております。また業績の状況や対策等を審議、検討し迅速な対応を行うとともに、取締役の業務の執行状況を監督しております。

###### ロ．監査役会の状況

監査役会は監査役3名（内、社外監査役2名）で構成され、全員が取締役会に出席し、随時意見を述べ、取締役の職務の執行状況について監査を行い、経営についての監視を行っております。

また、常勤監査役はその他重要会議への出席、各決裁文書の閲覧等により意思決定や業務執行状況の適法性、妥当性等について監査を行っております。

###### 内部統制システムおよびリスク管理体制の整備の状況

当社は、会社法および会社法施行規則に基づき、業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）に関する基本方針を定め、適正な業務運営に努めております。

###### <業務の適正を確保するための体制の整備に関する事項>

###### 1) 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

- ( ) 重要な職務の執行、決裁、その他重要事項に係る指示、伝達等については、文書または電磁的媒体に保存する。
- ( ) 監査役が求めたときは常時当該文書等を閲覧に供する。

###### 2) 当社および子会社（以下当社グループと言う）の損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- ( ) 取締役は各業務担当部門を指揮し、所管業務に関連する法令、環境、災害、その他リスク発生を回避または予防するためガイドライン等を制定し、マニュアルの作成、教育、業務監査等を実施し、損失の危険に関する事項を管理する。
- ( ) 損失の危険が現実化し重大な損害の発生が予測されるときは速やかに取締役会に報告する。

###### 3) 当社グループの取締役、使用人の職務執行が法令、定款に適合しかつ効率的に行われることを確保するための体制

- ( ) 「倫理規程」を定め、社内役員は毎年度始めに同規程遵守の自認書を取締役会に提出する。その上で経営目標達成を目指し、併せて社会的信用の向上を図る。
- ( ) 定款、取締役会規程、その他諸規定を遵守し、組織全体として業務執行が適正かつ効率的に行われることを確保する。
- ( ) 事業推進における適法性、効率性を確保するため次の経営管理制度を運用し、実効性を高める。

###### イ．意思決定の手順

重要な業務執行は取締役会において決定する。取締役は業務の執行状況について随時報告するものとし、その基準は取締役会規程による。

###### ロ．コンプライアンス確保

業務の遂行状況を定期的に検証する。また、事業活動における法令遵守を徹底するため総務部は法令遵守活動を統括管理する。

###### ハ．統制

定款、諸規定の遵守状況、財産の確認、その他適切な業務運営体制を確保するため業務監査を実施する。なお、その監査は、業務の主管部署が主としてこれに当たる。

- ( ) 法令、社会通念上疑義ある行為等について従業員が直接情報提供を行う手段として通報窓口を設置し、不法不正行為等の未然防止、早期発見を行う。この場合において、通報者に対し不利益な取扱いを行わない。

- ( ) 社会秩序や善良な企業活動に脅威を与える反社会勢力に対しては、毅然とした姿勢で一切の関係を持たない。
  - ( ) 効率経営の確保に向けて業務の合理化、迅速化、電子化等を継続検討する。
- 4) 当社グループにおける業務の適正を確保するための体制
- ( ) 関係会社に対する監査役による調査実施体制を構築する。
  - ( ) 関係会社管理規程に基づき関係会社の経営状況を継続的に監視するとともに、その業務の適正化について随時取締役会に報告する。
- 5) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項および監査役の職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項
- ( ) 監査役の職務を補助すべき使用人は総務部員より随時選任し、監査役会の事務局業務を併せて担当する。
  - ( ) 監査役の職務を補助する使用人は監査役会および監査役の指揮命令下で職務を遂行する。
  - ( ) 監査役の職務を補助する専任の使用人を配置する場合、その任命、配転、人事異動等に関する事項は監査役と事前協議を行う。
- 6) 当社グループの取締役および使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制
- ( ) 当社グループの取締役および使用人が監査役に報告すべき事項は下記を含む法令、定款、その他社内規定に定められた事項とする。
    - イ．取締役会の決議により委託を受けた事項
    - ロ．会社に著しい損害を及ぼすおそれのある事実
    - ハ．事業の遂行状況
    - ニ．法令違反に関する事項
    - ホ．毎月の経営の状況として重要な事項
    - ヘ．業務監査状況および倫理規程の遵守状況
    - ト．内部通報制度の運用および情報の内容
  - ( ) 監査役は職務遂行に必要と判断したときは常時取締役または使用人に報告を求めることができる。
- 7) 監査役職務の執行について生ずる費用の前払または償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用または債務の処理に係る方針に関する事項
- 当社は、監査役がその職務の執行について、当社に対し費用の前払い等の請求をしたときは、担当部署において審議の上、当該請求に係る費用または債務が当該監査役職務の執行に必要なでない認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
- 8) その他監査役職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制
- 監査役が業務監査を行う部門に対し職務の補助を要請したときは、必要な協力をを行う。
- 9) 責任限定契約の内容の概要
- 当社は、会社法427条第1項に基づき、社外取締役及び社外監査役との間において会社法第423条第1項の損害賠償を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償限度額は、法令が定める額としております。

## 役員報酬の内容

役員区分	報酬等の総額 (千円)	対象となる 役員の員数 (名)
取締役 (社外取締役を除く。)	4,299	2
社外取締役	16,395	2

- (注) 1 第8期に在籍していた役員は、取締役10名(うち社外取締役2名)、監査役5名(うち社外監査役4名)であります。
- 2 2014年6月27日開催の第2回定時株主総会決議による取締役の報酬限度額は年額70,000千円以内(役員退職慰労引当金繰入額および使用人兼務取締役に對する使用人分給とは含まない)、監査役の報酬限度額は年額15,000千円以内(役員退職慰労引当金繰入額は含まない)であります。
- 3 報酬等の総額には、当事業年度に係る役員退職慰労引当金繰入額1,930千円(取締役430千円、社外取締役1,500千円)および役員賞与の支給予定額3,764千円(取締役866千円、社外取締役2,898千円)が含まれております。

## 取締役の定数

取締役の定数は10名以内とする旨定款で定めております。

## 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、また、累積投票によらないものとする旨定款で定めております。

## 株主総会決議事項を取締役会で決議することができることとした事項

## 中間配当

当社は、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主に対して会社法第454条第5項の規定による中間配当を行える旨を定款に定めております。これは株主への利益還元を機動的に行うためであります。

## (2) 【役員の状況】

## 役員一覧

男性10名 女性1名 (役員のうち女性の比率9%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
代表取締役 会長兼社長	武藤 幸規	1944年3月27日生	1967年4月 プリヂストーンタイヤ(株)入社 (現 (株)プリヂストーン) 1975年5月 太平興業(株)取締役 1977年6月 第一貨物自動車(株)取締役 1979年9月 太平興業(株)専務取締役 1979年9月 第一貨物自動車(株)専務取締役 1984年7月 第一貨物自動車(株)取締役副社長 1984年8月 太平興業(株)代表取締役社長  1988年3月 第一貨物自動車(株)代表取締役社長 (現 第一貨物(株)) 2003年9月 第一貨物(株)代表取締役会長兼務 (株)大沼社外取締役 2006年5月 2006年6月 太平興業(株)代表取締役会長兼務 2007年6月 山形三菱自動車販売(株)代表取締役 役員会長(現任) 2012年10月 当社代表取締役会長兼社長 (現任) 2013年12月 D T 商事(株)代表取締役会長兼社長 2020年6月 山形三菱自動車販売(株)代表取締役 社長兼務(現任) 2020年6月 太平興業(株)代表取締役会長(現 任) 2020年6月 D T 商事(株)代表取締役会長(現 任) 2020年6月 第一貨物(株)代表取締役会長(現 任)	(注) 3	906,154株
取締役 経理財務部担当兼 経理財務部長	米田 総一郎	1957年5月4日生	2005年10月 三菱UFJ信託銀行(株)広島支店長 2012年10月 エム・ユー・トラスト総合管 理(株)常務取締役 2014年2月 丸八倉庫(株)非常勤監査役 2015年6月 太平興業(株)取締役(現任) 2015年6月 第一貨物(株)取締役経理部長兼監 査室長 2015年6月 当社取締役経理財務部長 2016年4月 第一貨物(株)常務取締役 2016年6月 D T 商事(株)取締役(現任) 2016年6月 当社取締役経理財務部担当兼経 理財務部長(現任) 2019年6月 第一貨物(株)専務取締役 2020年6月 第一貨物(株)代表取締役社長(現 任)	(注) 3	24,800株

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
取締役 事業開発部担当	平岡 裕	1958年3月28日生	2003年1月 三菱ふそうトラック・バス(株)国内販売本部販売部長 2009年1月 三菱ふそうトラック・バス(株)国内販売本部北陸ふそう社長 2011年4月 太平興業(株)営業本部副本部長兼業務部長 2011年6月 太平興業(株)取締役営業本部副本部長兼業務部長 2012年6月 太平興業(株)常務取締役営業本部長 2013年12月 D T 商事(株)取締役 2016年10月 太平興業(株)常務取締役営業本部長兼O A システム部長 2017年11月 D T 商事(株)取締役統括部長 2019年6月 太平興業(株)専務取締役営業本部長兼O A システム部長 2019年6月 当社取締役事業開発部担当(現任) 2019年6月 D T 商事(株)取締役統括部担当、統括部長兼海外営業部長 2020年4月 D T 商事(株)取締役統括部・海外営業部担当、統括部長 2020年6月 太平興業(株)代表取締役社長(現任) 2020年6月 D T 商事(株)代表取締役社長(現任)	(注) 3	36,088株
取締役 企画管理部担当	小原 雄大	1965年3月4日生	2013年6月 三菱UFJ信託銀行(株)法人事務サービス部長 2015年4月 三菱UFJ信託銀行(株)リテール融資業務部長 2018年4月 第一貨物(株)経営企画室長 2019年4月 第一貨物(株)経営企画室長兼国際事業部長兼上海駐在員事務所長 2019年6月 第一貨物(株)常務取締役経営企画室長兼国際事業部長兼上海駐在員事務所長(現任) 2019年6月 太平興業(株)取締役(現任) 2019年6月 当社取締役企画管理部担当(現任)	(注) 3	10,000株
取締役 総務部担当兼 経理財務部副担当	藤井 俊昭	1961年10月3日生	2014年10月 三菱UFJ信託銀行(株)大阪法人営業部長 2016年4月 三菱UFJトラストビジネス(株)執行役員総務部長 2019年6月 太平興業(株)常務取締役管理本部長(現任) 2019年6月 D T 商事(株)取締役総務部長 2019年6月 当社取締役総務部担当兼経理財務部副担当(現任) 2020年4月 D T 商事(株)取締役総務部担当(現任)	(注) 3	10,000株

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
取締役	五十嵐 淳 雄	1952年 8 月17日生	2000年10月 三菱信託銀行(株)自由が丘支店長 (現 三菱UFJ信託銀行(株)) 2002年 5 月 三菱信託銀行(株)岡山支店長 (現 三菱UFJ信託銀行(株)) 2006年 5 月 第一貨物(株)経営企画室長 2006年 6 月 第一貨物(株)取締役経営企画室長 2006年 6 月 太平興業(株)取締役 2010年 6 月 第一貨物(株)常務取締役経営企画 室長 2010年 7 月 第一貨物(株)常務取締役 2012年10月 当社取締役企画担当 2015年 4 月 当社取締役企画担当兼企画管理 部長 2015年 6 月 当社取締役企画管理部担当 2019年 6 月 当社取締役(現任)	(注) 3	10,800株
取締役 (注) 1	大沼 八右衛門	1945年 4 月26日生	1968年 4 月 安田信託銀行(株)入行 (現 みずほ信託銀行(株)) 1975年10月 (株)大沼入社 1987年 5 月 (株)大沼代表取締役社長 2005年 5 月 (株)大沼取締役会長 2006年 5 月 (株)大沼特別顧問 2008年10月 全国健康保険協会 山形支部長 2013年12月 (一社) 與田教育財団代表理事 (現任) 2015年 6 月 当社取締役(現任)	(注) 3	- 株
取締役 (注) 1	角 田 マ リ	1954年 5 月11日生	1992年 3 月 (有)エムキューブインターナ ショナル代表取締役 1996年 4 月 アジアの女性と子どもネット ワーク(AWC)代表 2000年 6 月 国際連合人間居住計画(国連ハ ビタット)親善大使 2002年 4 月 東京農業大学/東京農業大学短 期大学部客員教授 2013年 9 月 (一社)農あるくらし研究会理事 2013年12月 九州大学大学院工学府 客員教 授 2015年 6 月 当社取締役(現任) 2018年 4 月 東京女子大学 教授(現任) 2019年 6 月 東洋アルミニウム(株)社外取締役 (現任)	(注) 3	- 株
常勤監査役 (注) 2	佐 藤 徹	1959年 1 月28日生	2010年 6 月 (株)きらやか銀行執行役員鶴岡中 央支店長 2013年 4 月 (株)きらやか銀行執行役員営業本 部営業統括部長 2013年 6 月 (株)きらやか銀行常務執行役員営 業本部営業統括部長 2014年 4 月 (株)きらやか銀行常務執行役員中 央営業部営業部長 2017年 6 月 山形ビジネスサービス(株)社長 2019年 6 月 第一貨物(株)常勤監査役(現任) 2019年 6 月 当社常勤監査役(現任)	(注) 4	4,000株

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数
監査役	中 桐 俊	1943年4月4日生	1995年4月 三菱信託銀行(株)投資企画部長 (現 三菱UFJ信託銀行(株)) 1997年6月 太平興業(株)取締役 1997年6月 第一貨物(株)取締役 2007年6月 第一貨物(株)専務取締役管理本部長 2012年6月 太平興業(株)取締役退任 2012年6月 第一貨物(株)専務取締役管理本部長退任 2015年6月 太平興業(株)監査役(現任) 2015年6月 第一貨物(株)監査役(現任) 2015年6月 当社監査役(現任)	(注)4	16,800株
監査役 (注)2	川 島 時 夫	1959年1月20日生	2006年5月 (株)三菱東京UFJ銀行札幌支店長 (現 (株)三菱UFJ銀行) 2008年9月 (株)三菱東京UFJ銀行ドイツ総支配人兼デュッセルドルフ支店長 (現 (株)三菱UFJ銀行) 2011年4月 オムロン(株)常勤監査役 2019年6月 太平興業(株)監査役(現任) 2019年6月 第一貨物(株)監査役(現任) 2019年6月 (株)共立メンテナンス監査等委員である取締役(現任) 2019年6月 (株)共立トラスト監査役(現任) 2019年6月 当社監査役(現任) 2020年6月 リコーリース(株)監査等委員である取締役(現任)	(注)4	株
計					1,018,642株

- (注) 1. 取締役大沼八右衛門および角田マリは、社外取締役であります。
2. 監査役佐藤徹および川島時夫は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2022年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役の任期は、2020年3月期に係る定時株主総会終結の時から2024年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役である大沼八右衛門氏は、元(株)大沼特別顧問であり、企業経営者としての豊富な経験と幅広い見識に基づき、当社グループ経営に貢献していただけると判断しております。なお、当社と(株)大沼との間に特別な利害関係はありません。

社外取締役である角田マリ氏は、東京女子大学教授、東洋アルミニウム(株)社外取締役であり、国際情勢に精通し豊富な経験とグローバルな視点により、これから当社が新規事業を展開するにあたり、適切な意見・助言をいただくと判断しております。なお、当社と東京女子大学、東洋アルミニウム(株)との間に特別な利害関係はありません。

社外監査役である佐藤徹氏は、元(株)きらやか銀行執行役員であり、子会社第一貨物(株)常勤監査役であります。当社と(株)きらやか銀行との間に特別な利害関係はありません。

社外監査役である川島時夫氏は、(株)共立メンテナンス監査等委員である取締役、(株)共立トラスト監査役、リコーリース(株)監査等委員である取締役であります。当社と(株)共立メンテナンス、(株)共立トラスト、リコーリース(株)との間に特別な利害関係はありません。

社外監査役である佐藤徹氏及び川島時夫氏は、金融業務の豊富な経験や幅広い見識に基づき、当社グループのコーポレート・ガバナンスに貢献していただけるものと判断しております。

### (3) 【監査の状況】

#### 監査役監査の状況

当社における監査役監査は、監査役会の設置により監査役3名(内、社外監査役2名)で構成され、全員が



取締役会に出席し、随時意見を述べ、取締役の職務の執行状況について監査を行い、経営についての監視を行っております。

また、常勤監査役はその他重要会議への出席、各決裁文書の閲覧等により意思決定や業務執行状況の適法性、妥当性等について監査を行っております。

当事業年度において当社は監査役会10回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

氏名	開催回数	出席回数	備考
佐藤 徹	7回	7回	2019年6月27日の就任以降について記載しております。
中桐 俊	10回	10回	
川島 時夫	7回	7回	2019年6月27日の就任以降について記載しております。

監査役会における主な検討事項として、監査役監査計画・監査方針・実施計画の決定、取締役等および会計監査人の職務執行状況についての監査、会計監査人の評価と再任・監査報酬に対する同意等を行っております。

#### 内部監査の状況

当社は持株会社であり内部監査の組織はありませんが、特定子会社第一貨物(株)では、監査室(3名)が設置されており、また、特定子会社太平興業(株)では経理部内に設置された監査チーム(3名)が、各事業所及びグループ会社の内部監査を実施し、運営状況、業務実施の有効性及び正確性、コンプライアンスの遵守状況等の検証を行っております。内部監査結果については、代表取締役へ報告の上、問題点の改善勧告を行っております。

#### 会計監査の状況

##### a. 監査法人の名称

有限責任監査法人トーマツ

##### b. 継続監査期間

8年間

##### c. 業務を執行した公認会計士

公認会計士 板谷宏之氏

公認会計士 奥津佳樹氏

##### d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者の構成は、公認会計士5名、その他6名であります。

##### e. 監査法人の選定方針と理由

2012年10月の当社設立に際し、事業所監査、子会社監査等を積極的に行い、コミュニケーション重視であること、課題の把握と共有化を徹底し、適時適切な課題解決が期待できること等より、総合的に検討した結果、有限責任監査法人トーマツを会計監査人として選定しております。

なお、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定められている項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任致します。また、監査役会は、会計監査人の職務の執行状況等を総合的に勘案し、必要と判断した場合は、会計監査人の解任または不再任の議案の内容を決定し、取締役会に株主総会の目的事項とすることを求めます。

##### f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役及び監査役会は、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視および検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めることで評価を行っております。

## 監査報酬の内容等

## a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	8,900		14,100	
連結子会社	27,500		33,900	
計	36,400		48,000	

## b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

## c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

## d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査法人と監査日数や監査業務内容等について協議した事項を監査役会の同意を得た上で取締役会に諮り、取締役会の承認決議を経て決定致します。

## e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

取締役会が提案した会計監査人に対する報酬等に対して、当社の監査役会が会社法第399条第1項の同意をした理由は、監査計画の内容、従前の事業年度における職務執行状況や報酬見積の算出根拠に加え、経営執行部との報酬の交渉・合意プロセス等が妥当であったからであります。

## (4) 【役員の報酬等】

該当事項はありません。

## (5) 【株式の保有状況】

該当事項はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2019年4月1日から2020年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、監査法人および各種団体の主催する研修等への参加ならびに会計専門誌の定期購読等により、積極的な情報収集活動等に努めております。

## 1 【連結財務諸表等】

## (1) 【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4 7,992,516	4 6,483,366
受取手形及び売掛金	4, 9 18,176,576	4 17,170,850
電子記録債権	986,866	893,168
たな卸資産	8 6,528,333	8 5,219,285
その他	1,811,756	1,633,815
貸倒引当金	58,140	63,080
流動資産合計	35,437,909	31,337,406
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3 60,935,892	3 61,606,954
減価償却累計額	5 39,375,450	5 40,919,083
建物及び構築物(純額)	4 21,560,441	4 20,687,871
機械及び装置	2,607,972	2,616,496
減価償却累計額	5 2,061,941	5 2,174,156
機械及び装置(純額)	546,030	442,339
車両運搬具	13,849,214	15,270,844
減価償却累計額	5 10,140,782	5 8,464,654
車両運搬具(純額)	4 3,708,431	4 6,806,190
工具、器具及び備品	1,738,125	1,747,580
減価償却累計額	5 1,512,022	5 1,539,285
工具、器具及び備品(純額)	226,103	208,295
土地	3, 4, 6 47,756,096	3, 4, 6 47,858,640
リース資産	2,175,612	2,311,875
減価償却累計額	5 1,216,729	5 1,223,587
リース資産(純額)	958,883	1,088,288
建設仮勘定	169,307	2,345,038
有形固定資産合計	74,925,294	79,436,664
無形固定資産	1,628,560	1,543,248

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,855,808	1,452,656
関係会社株式	<sup>2</sup> 180,763	<sup>2</sup> 181,685
退職給付に係る資産	34,351	34,338
差入保証金	1,380,546	1,292,817
繰延税金資産	39,204	71,195
その他	<sup>2</sup> 555,041	<sup>2</sup> 510,476
貸倒引当金	85,212	63,684
投資その他の資産合計	3,960,504	3,479,487
固定資産合計	80,514,359	84,459,400
<b>資産合計</b>	<b>115,952,269</b>	<b>115,796,806</b>
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	<sup>4, 9</sup> 9,687,160	<sup>4</sup> 7,032,802
電子記録債務	7,084,688	6,958,889
短期借入金	<sup>4, 7</sup> 13,272,000	<sup>4, 7</sup> 15,772,000
1年内返済予定の長期借入金	<sup>4</sup> 8,025,463	<sup>4</sup> 5,507,330
リース債務	570,306	437,576
未払金	1,981,279	1,205,133
未払費用	3,612,872	3,295,203
未払法人税等	789,067	266,759
未払消費税等	695,715	827,858
賞与引当金	33,618	23,981
役員賞与引当金	25,485	44,146
デリバティブ債務	40,490	338,264
その他	1,421,714	2,661,591
流動負債合計	47,239,863	44,371,536
<b>固定負債</b>		
社債	250,000	250,000
長期借入金	<sup>4</sup> 15,185,786	<sup>4</sup> 15,066,703
リース債務	687,002	770,404
長期預り金	2,810,517	5,862,836
役員退職慰労引当金	840,162	790,626
退職給付に係る負債	3,766,544	3,853,730
資産除去債務	282,362	284,910
再評価に係る繰延税金負債	<sup>6</sup> 1,528,463	<sup>6</sup> 1,498,742
繰延税金負債	9,014,300	8,804,457
その他	300,858	304,088
固定負債合計	34,665,998	37,486,498
<b>負債合計</b>	<b>81,905,861</b>	<b>81,858,034</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金	4,646,936	4,646,936
利益剰余金	24,346,715	24,812,646
自己株式	5,553	6,657
株主資本合計	30,988,098	31,452,925
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	324,344	87,454
繰延ヘッジ損益	21,512	154,824
土地再評価差額金	6 2,635,647	6 2,578,642
退職給付に係る調整累計額	6,475	154,485
その他の包括利益累計額合計	2,932,003	2,356,786
非支配株主持分	126,305	129,059
純資産合計	34,046,407	33,938,771
負債純資産合計	115,952,269	115,796,806

## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
営業収益	110,234,091	108,989,345
営業原価	99,415,402	99,437,444
営業総利益	10,818,689	9,551,900
販売費及び一般管理費	1 8,015,495	1 7,853,476
営業利益	2,803,193	1,698,424
営業外収益		
受取利息	24,902	7,136
受取配当金	33,688	43,816
受取賃貸料	121,679	116,568
受取手数料	32,880	42,441
助成金収入	59,119	39,543
持分法による投資利益	3,381	2,152
その他	294,164	139,883
営業外収益合計	569,815	391,542
営業外費用		
支払利息	446,088	419,889
為替差損	7,563	8,128
支払手数料	38,099	128,863
デリバティブ損失	8,192	108,013
その他	60,229	71,887
営業外費用合計	560,173	736,781
経常利益	2,812,835	1,353,185
特別利益		
投資有価証券売却益	-	174,765
有形固定資産売却益	2 280,416	2 69,205
その他	4,972	17,476
特別利益合計	285,389	261,448
特別損失		
有形固定資産売却損	25,520	-
有形固定資産除却損	3 8,709	3 2,767
関係会社株式売却損	73,704	-
投資有価証券評価損	-	32,004
減損損失	4 13,611	4 263,753
その他	20,101	21,271
特別損失合計	141,647	319,796
税金等調整前当期純利益	2,956,576	1,294,837
法人税、住民税及び事業税	1,270,265	738,381
法人税等調整額	108,699	19,817
法人税等合計	1,161,565	718,563
当期純利益	1,795,010	576,274
非支配株主に帰属する当期純利益	369	4,105
親会社株主に帰属する当期純利益	1,794,641	572,168

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
当期純利益	1,795,010	576,274
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	135,063	237,226
繰延ヘッジ損益	17,986	133,311
為替換算調整勘定	35,671	-
退職給付に係る調整額	130,693	148,009
持分法適用会社に対する持分相当額	50	253
その他の包括利益合計	1 49,338	1 518,293
包括利益	1,844,349	57,980
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,844,475	53,957
非支配株主に係る包括利益	125	4,023



## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,000,000	4,633,703	22,688,136	4,508	29,317,331
当期変動額					
剰余金の配当			136,063		136,063
親会社株主に帰属する当期純利益			1,794,641		1,794,641
自己株式の取得				1,045	1,045
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		13,233			13,233
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	13,233	1,658,578	1,045	1,670,766
当期末残高	2,000,000	4,646,936	24,346,715	5,553	30,988,098

	その他の包括利益累計額						非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	459,106	39,499	2,635,647	35,671	137,169	2,882,413	141,833	32,341,579
当期変動額								
剰余金の配当								136,063
親会社株主に帰属する当期純利益								1,794,641
自己株式の取得								1,045
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動								13,233
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	134,762	17,986	-	35,671	130,693	49,589	15,528	34,061
当期変動額合計	134,762	17,986	-	35,671	130,693	49,589	15,528	1,704,828
当期末残高	324,344	21,512	2,635,647	-	6,475	2,932,003	126,305	34,046,407

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,000,000	4,646,936	24,346,715	5,553	30,988,098
当期変動額					
剰余金の配当			163,242		163,242
親会社株主に帰属する当期純利益			572,168		572,168
自己株式の取得				1,104	1,104
土地再評価差額金の取崩			57,005		57,005
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	465,931	1,104	464,826
当期末残高	2,000,000	4,646,936	24,812,646	6,657	31,452,925

	その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	324,344	21,512	2,635,647	6,475	2,932,003	126,305	34,046,407
当期変動額							
剰余金の配当							163,242
親会社株主に帰属する当期純利益							572,168
自己株式の取得							1,104
土地再評価差額金の取崩			57,005		57,005		-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	236,890	133,311	-	148,009	518,211	2,754	515,457
当期変動額合計	236,890	133,311	57,005	148,009	575,216	2,754	107,635
当期末残高	87,454	154,824	2,578,642	154,485	2,356,786	129,059	33,938,771

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	2,956,576	1,294,837
減価償却費	2,908,271	2,716,760
減損損失	13,611	263,753
有形固定資産除却損	8,709	2,767
有形固定資産売却損益(は益)	273,967	69,205
関係会社株式売却損益(は益)	73,704	-
投資有価証券売却損益(は益)	-	174,765
投資有価証券評価損益(は益)	-	32,004
賞与引当金の増減額(は減少)	291	9,637
貸倒引当金の増減額(は減少)	44,600	16,587
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	175,000	60,810
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	48,567	49,536
受取利息及び受取配当金	58,590	50,952
支払利息	446,088	419,889
持分法による投資損益(は益)	3,381	2,152
売上債権の増減額(は増加)	333,958	1,119,981
たな卸資産の増減額(は増加)	2,286,062	1,309,047
仕入債務の増減額(は減少)	1,423,989	2,780,157
未払金の増減額(は減少)	225,263	550,819
未払費用の増減額(は減少)	65,777	305,572
未払消費税等の増減額(は減少)	164,054	132,142
預り金の増減額(は減少)	329,386	97,308
前受金の増減額(は減少)	62,726	1,473,677
その他	413,435	119,337
小計	4,200,141	4,478,018
法人税等の支払額	1,007,307	1,470,040
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,192,833	3,007,978

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	260,902	237,202
定期預金の払戻による収入	272,400	185,200
有形固定資産の取得による支出	10,311,017	7,966,194
有形固定資産の売却による収入	1,670,219	897,713
無形固定資産の取得による支出	88,361	53,868
無形固定資産の売却による収入	246	-
貸付けによる支出	5,801	3,400
貸付金の回収による収入	1,886	2,238
建設協力金の回収による収入	24,000	19,000
投資有価証券の取得による支出	103,631	30,017
投資有価証券の売却による収入	-	230,958
差入保証金の差入による支出	28,998	16,959
差入保証金の回収による収入	13,865	104,687
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	10,390	-
利息及び配当金の受取額	58,592	51,047
その他	135,456	101,753
投資活動によるキャッシュ・フロー	8,632,436	6,715,043
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	154,854,000	126,202,404
短期借入金の返済による支出	154,345,000	123,702,404
長期借入れによる収入	11,517,000	5,440,000
長期借入金の返済による支出	9,143,655	8,077,216
ファイナンス・リース債務の返済による支出	595,078	576,526
預り金の受入による収入	3,372,656	4,063,221
預り金の返済による支出	224,962	604,580
自己株式の取得による支出	1,045	1,104
配当金の支払額	136,063	163,242
非支配株主への配当金の支払額	1,253	1,268
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	16,050	-
利息の支払額	443,397	433,369
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,869,251	2,145,912
現金及び現金同等物に係る換算差額	516	-
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	570,867	1,561,152
現金及び現金同等物の期首残高	8,322,761	7,751,893
現金及び現金同等物の期末残高	1 7,751,893	1 6,190,740

**【注記事項】**

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

**1. 連結の範囲に関する事項**

連結子会社数

17社

連結子会社の名称

太平興業(株)

第一貨物(株)

D T 商事(株)

長野第一物流(株)

(株)第一流通サービス

東京第一物流(株)

山形三菱自動車販売(株)

福島第一物流(株)

第一梱包運輸(株)

新潟第一梱包運輸(株)

東北第一物流(株)

大阪第一物流(株)

名古屋第一物流(株)

啓明興業(株)

日本アバカス(株)

庄内定温輸送(株)

(株)ナビトランス

**2. 持分法の適用に関する事項**

(1)持分法を適用した関連会社数とその名称

1社 都留貨物自動車(株)

(2)持分法を適用しない関連会社数とその名称

3社 ジャパン・トランス・ライン(株)

上海特耐王第一物流有限公司

SENDOK TAIHEI SDN. BHD.

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は小規模会社であり、当期純損益（持分に見合う額）および利益剰余金（持分に見合う額）等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に与える影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。

**3. 連結子会社の事業年度等に関する事項**

連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

#### 4 会計方針に関する事項

##### (1) 重要な資産の評価基準および評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法によっております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

デリバティブ

時価法

たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

評価基準は原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)によっております。

a 商品

主として個別法

b 製品

個別法

c 積送品

個別法

d 原材料

先入先出法

e 仕掛品

個別法

f 貯蔵品

先入先出法

##### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

建物及び構築物、車両運搬具の一部については定額法、その他の固定資産については定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次の通りであります。

建物及び構築物 2年～38年

車両運搬具 2年～4年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年又は10年)に基づく定額法を採用しております。

一括償却資産

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年均等償却によっております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

### (3) 重要な引当金の計上基準

#### 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、回収不能見込額を計上しております。

#### a 一般債権

貸倒実績率法によっております。

#### b 貸倒懸念債権および破産更生債権

財務内容評価法によっております。

#### 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

#### 役員賞与引当金

役員に対する賞与支給のため、支給見込額を計上しております。

#### 役員退職慰労引当金

提出会社および一部の連結子会社は、役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。

### (4) 退職給付に係る会計処理の方法

#### 退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

#### 数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

#### 小規模企業等における簡便法の採用

一部の連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

### (5) 重要な収益および費用の計上基準

#### ソフトウェア開発請負業務の収益計上基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる請負業務については業務進行基準（請負業務の進捗率の見積は原価比例法）を適用し、その他の請負業務については業務完成基準を適用しております。

### (6) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、為替差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は、期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めております。

### (7) 重要なヘッジ会計の方法

#### ヘッジ会計の方法

原則として、繰延ヘッジ処理によっております。燃料購入における価格変動リスクに備えるためのデリバティブ取引についてもヘッジ会計を適用し、その方法は繰延ヘッジを採用しております。また、金利スワップの特例の要件を満たす取引については、特例処理を適用しております。

#### ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ会計を適用したヘッジ手段とヘッジ対象は以下の通りであります。

#### a ヘッジ手段・・・原油スワップ、原油カラー取引

ヘッジ対象・・・軽油仕入価格

#### b ヘッジ手段・・・金利スワップ

ヘッジ対象・・・借入金

#### ヘッジ方針

デリバティブ取引の実行および管理は連結子会社の内規により取引権限等を定めております。原油スワップ取引、原油カラー取引は燃料購入における価格変動リスクをヘッジ、また、金利スワップ取引は金利変動によるリスクをヘッジするためにデリバティブ取引を利用しており、投機目的のものではありません。

#### ヘッジ有効性評価の方法

原油スワップ取引および原油カラー取引、金利スワップ取引については、ヘッジ手段およびヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時およびその後も継続して相場変動またはキャッシュ・フロー変動を完全に相殺することができるため、ヘッジの有効性判定は省略しております。

#### (8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金および取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

#### (9) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

##### 消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。



(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2020年3月31日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

- ステップ1: 顧客との契約を識別する。
- ステップ2: 契約における履行義務を識別する。
- ステップ3: 取引価格を算定する。
- ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。
- ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2019年7月4日)
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 2019年7月4日)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)

(1) 概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(以下「時価算定会計基準等」という。)が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。時価算定会計基準等は次の項目の時価に適用されます。

- ・「金融商品に関する会計基準」における金融商品
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」におけるトレーディング目的で保有する棚卸資産

また「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められました。

(2) 適用予定日

2022年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当財務諸表の作成時において評価中です。

- ・「会計方針の開示、会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 2020年3月31日)

(1) 概要

関連する会計基準等の定めが明らかでない場合に、採用した会計処理の原則及び手続きの概要を示すことを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

・「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)

(1) 概要

当年度の財務諸表に計上した金額が会計上の見積りによるもののうち、翌年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある項目における会計上の見積りの内容について、財務諸表利用者の理解に資する情報を開示することを目的とするものです。

(2) 適用予定日

2021年3月期の年度末より適用予定であります。

(表示方法の変更)

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度において、「固定負債」の「その他」に含めていた「長期預り金」は、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定負債」の「その他」に表示していた3,111,375千円は、「長期預り金」2,810,517千円、「その他」300,858千円として組み替えております。

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「支払手数料」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当連結会計年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた98,329千円は、「支払手数料」38,099千円、「その他」60,229千円として組み替えております。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、急激な経済活動の縮小およびこれに伴う経済環境の悪化が発生しており、物流関連事業の主力事業である貨物自動車運送事業において足元で売上高の減少等の影響が生じているものの、当社グループの当連結会計年度の業績に大きな影響はありません。

このような状況において、当社グループでは、2021年3月期の一定期間にわたり当感染症の影響が継続するという仮定のもと、債権評価及び固定資産の減損損失等の会計上の見積りを行っております。

なお、感染拡大の収束が遅れた場合には、当社グループの将来の収益およびキャッシュ・フローに影響を及ぼし、見積もられた金額と事後的な結果との間に乖離が生じる可能性があります。

(連結貸借対照表関係)

## 1 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
	16,196千円	19,461千円

## 2 非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
関係会社株式	176,299千円	181,685千円
その他(関係会社出資金)	27,090 "	27,090 "

## 3 圧縮対象資産のうち取得価額から直接減額している金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物圧縮額	1,708,743千円	1,708,743千円
土地圧縮額	3,639,004 "	3,639,004 "
計	5,347,747千円	5,347,747千円

## 4 担保資産および担保付債務

道路交通事業財団抵当として担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
建物及び構築物	10,762,710千円	11,847,000千円
車両運搬具	43,075 "	101,774 "
土地	29,816,207 "	31,278,386 "
計	40,621,992千円	43,227,161千円

上記に対応する債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年内返済予定の長期借入金	2,675,840千円	2,540,520千円
長期借入金	8,781,870 "	8,241,350 "
計	11,457,710千円	10,781,870千円

上記資産以外で担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
受取手形及び売掛金	510,052千円	263,613千円
建物及び構築物	5,536,898 "	1,837,267 "
土地	7,997,318 "	6,365,936 "
計	14,044,269千円	8,466,818千円

上記に対応する債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
短期借入金	5,920,000千円	5,470,000千円
1年内返済予定の長期借入金	1,126,330 "	282,036 "
長期借入金	552,527 "	357,131 "
支払手形及び買掛金	4,365,933 "	1,927,258 "
計	11,964,790千円	8,036,425千円

質権として担保に供している資産は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
現金及び預金	52,200千円	52,200千円

上記に対応する債務は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
支払手形及び買掛金	27,810千円	18,488千円

## 5 資産に係る減価償却累計額

減価償却累計額には、減損損失累計額を含めて表示しております。

## 6 土地の再評価

子会社である太平興業(株)は、土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)、並びに、土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用土地の再評価を行い、評価差額については当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

### 再評価の方法

土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める方法に基づき、固定資産税評価額に合理的な調整を行って算出しております。

再評価を行った年月日 2001年3月31日

同法律第10条に定める再評価を行った事業用土地の当連結会計年度末における時価の合計額が、当該事業用土地の再評価後の帳簿価額の合計額を下回る金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
	1,059,336千円	1,024,362千円

#### 7 貸出コミットメント

子会社である第一貨物㈱は、運転資金の効率的な調整を行うため取引銀行2行と貸出コミットメント契約を締結しております。

当連結会計年度末における貸出コミットメントに係る借入金未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
貸出コミットメントの総額	2,200,000千円	2,200,000千円
借入実行残高	- "	1,000,000 "
差引額	2,200,000千円	1,200,000千円

#### 8 たな卸資産の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
商品	6,084,729千円	4,837,479千円
積送品	147,148 "	153,727 "
仕掛品	114,807 "	66,717 "
貯蔵品	181,648 "	161,361 "
計	6,528,333千円	5,219,285千円

#### 9 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれておりません。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
受取手形及び売掛金	607,218千円	- 千円
支払手形及び買掛金	295,851 "	- "

## (連結損益計算書関係)

## 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
人件費	4,344,253千円	4,254,235千円
退職給付費用	92,269 "	98,283 "
役員退職慰労引当金繰入額	89,987 "	79,308 "
減価償却費	704,912 "	723,866 "
施設使用料	403,493 "	391,208 "
租税公課	188,744 "	168,997 "
旅費及び通信費	322,920 "	300,678 "

## 2 有形固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
建物及び構築物等	4,881千円	6,350千円
土地	275,535 "	62,855 "
計	280,416千円	69,205千円

## 3 有形固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
車両運搬具	2,347千円	- 千円
建物及び構築物等	6,362 "	2,767 "
計	8,709千円	2,767千円

#### 4 減損損失

当社グループが計上いたしました主な減損損失の内容は次のとおりであります。

前連結会計年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

用途	種類	場所	金額(千円)
第一貨物(株)物流センターの 在庫管理システム等	リース資産	大阪府東大阪市	8,058

（グルーピングの方法）

当社グループは、事業の種類ごとに管理会計上の区分を考慮して、事業単位、拠点単位等によりグルーピングを行っております。また、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングを行っております。

（経緯）

東大阪市のリース資産については、子会社第一貨物(株)が保有するものであり、収益性が著しく下落したため、帳簿価額と回収可能価額との差額を減損損失として認識いたしました。なお、回収可能価額は、使用価値により測定しております。

当連結会計年度（自 2019年4月1日 至 2020年3月31日）

用途	種類	場所	金額(千円)
太平興業(株)鶴岡支店	土地・建物等	山形県鶴岡市	233,936

（グルーピングの方法）

当社グループは、事業の種類ごとに管理会計上の区分を考慮して、事業単位、拠点単位等によりグルーピングを行っております。また、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングを行っております。

（経緯）

鶴岡市の土地、建物等については、子会社太平興業(株)が保有するものであり、収益性が著しく下落したため、帳簿価額と回収可能価額との差額を減損損失として認識いたしました。なお、回収可能価額は、不動産鑑定評価等に基づき、正味売却価額により測定しております。

## (連結包括利益計算書関係)

## 1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	205,422千円	360,853千円
組替調整額	- "	174,765 "
税効果調整前	205,422千円	535,619千円
税効果額	70,358 "	298,392 "
その他有価証券評価差額金	135,063千円	237,226千円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	55,297千円	191,998千円
組替調整額	27,932 "	10,784 "
税効果調整前	27,364千円	202,783千円
税効果額	9,377 "	69,471 "
繰延ヘッジ損益	17,986千円	133,311千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	1,010千円	- 千円
組替調整額	36,681 "	- "
為替換算調整勘定	35,671千円	- 千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	169,609千円	213,654千円
組替調整額	29,194 "	11,488 "
税効果調整前	198,804千円	225,143千円
税効果額	68,110 "	77,134 "
退職給付に係る調整額	130,693千円	148,009千円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	50千円	253千円
その他の包括利益合計	49,338千円	518,293千円



## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,618,700	-	-	13,618,700

## 2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,374	2,750	-	15,124

## (変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 2,750株

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	136,063	10.00	2018年3月31日	2018年6月29日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	163,242	12.00	2019年3月31日	2019年6月28日

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

## 1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	13,618,700	-	-	13,618,700

## 2. 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	15,124	2,872	-	17,996

## (変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 2,872株

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	163,242	12.00	2019年3月31日	2019年6月28日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	136,007	10.00	2020年3月31日	2020年6月26日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
現金及び預金	7,992,516千円	6,483,366千円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	240,623 "	292,626 "
現金及び現金同等物	7,751,893千円	6,190,740千円

## 2 重要な非資金取引の内容

ファイナンス・リース取引に係る資産および債務の額

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
ファイナンス・リース取引に係る 資産および債務	297,166千円	540,435千円

## (リース取引関係)

## 1 ファイナンス・リース取引

## (借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引(通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっているもの)

リース資産の内容

有形固定資産

機械及び装置

車両運搬具

工具、器具及び備品

無形固定資産

ソフトウェア

リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

## (貸主側)

前連結会計年度(2019年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

## 2 オペレーティング・リース取引

## (借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1年以内	1,874,958千円	1,877,565千円
1年超	4,810,136 "	4,103,511 "
合計	6,685,095千円	5,981,077千円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入または社債により資金を調達しております。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金並びに電子記録債権に係る顧客の信用リスクは、取引先ごとの期日管理や残高管理を定期的に行い、リスク低減を図っております。また、投資有価証券は株式であり、上場株式については市場価格の変動リスクに晒されておりますが、半期ごとに時価の把握を行っております。

営業債務である支払手形及び買掛金並びに電子記録債務、未払金、未払消費税等は全て一年以内の支払期日であります。また、借入金および社債の用途は運転資金（主として短期）および設備資金（長期）であり、一部の長期借入金の金利変動リスクに対して金利スワップ取引を実施して支払利息の固定化を実施しております。

デリバティブ取引については、将来の燃料購入価格変動リスクのヘッジを目的としたオイルスワップ取引およびオイルカラー取引、借入金に係る支払利息の変動リスクのヘッジを目的とした金利スワップ取引であり、実需の範囲で行うこととしております。また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、営業債権について経理財務部が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の管理方法に準じて、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、借入金および社債に係る支払金利の変動リスクを抑制するために、金利スワップ取引を利用しております。また、投資有価証券については定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理財務部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性を相当額維持することなどにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。(注2)を参照願います)

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	7,992,516	7,992,516	-
(2) 受取手形及び売掛金	18,176,576	18,175,288	1,287
(3) 電子記録債権	986,866	986,866	-
(4) 投資有価証券	1,433,690	1,433,690	-
資産計	28,589,650	28,588,362	1,287
(1) 支払手形及び買掛金	9,687,160	9,687,160	-
(2) 電子記録債務	7,084,688	7,084,688	-
(3) 短期借入金	13,272,000	13,272,000	-
(4) 未払金	1,981,279	1,981,279	-
(5) 社債	250,000	250,368	368
(6) 長期借入金 (1年内返済予定の 長期借入金を含む)	23,211,249	23,314,317	103,067
(7) リース債務	1,257,308	1,257,308	-
負債計	56,743,687	56,847,123	103,435
デリバティブ取引	40,490	40,490	-

( ) リース債務には流動負債に属する金額を含んでおります。

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	6,483,366	6,483,366	-
(2) 受取手形及び売掛金	17,170,850	17,170,381	468
(3) 電子記録債権	893,168	893,168	-
(4) 投資有価証券	1,026,687	1,026,687	-
資産計	25,574,072	25,573,603	468
(1) 支払手形及び買掛金	7,032,802	7,032,802	-
(2) 電子記録債務	6,958,889	6,958,889	-
(3) 短期借入金	15,772,000	15,772,000	-
(4) 未払金	1,205,133	1,205,133	-
(5) 社債	250,000	249,587	412
(6) 長期借入金 (1年内返済予定の 長期借入金を含む)	20,574,033	20,593,474	19,440
(7) リース債務	1,207,981	1,207,981	-
負債計	53,000,839	53,019,867	19,027
デリバティブ取引	338,264	338,264	-

( ) リース債務には流動負債に属する金額を含んでおります。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

## 資産

## (1) 現金及び預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 受取手形及び売掛金、及び(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。なお、一部の受取手形の時価については、元利金の合計額を同様の新規割賦販売等を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。

## (4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご覧ください。

## 負債

## (1) 支払手形及び買掛金、及び(2) 電子記録債務、並びに(3) 短期借入金、(4) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (5) 社債、及び(6) 長期借入金（1年内返済予定の長期借入金を含む）

これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

## (7) リース債務

リース債務は、連結貸借対照表に利息相当額控除前の金額で計上しており、時価の欄には連結貸借対照表計上額を記載しております。

## デリバティブ取引

これらの時価については、主たる取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

## (注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区 分	2019年3月31日	2020年3月31日
非上場株式	422,117	425,969
関係会社株式	180,763	181,685
差入保証金	1,380,546	1,292,817

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「金融商品の時価等に関する事項」には含めておりません。

## (注3) 金銭債権および満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	7,992,516	-	-	-
受取手形及び売掛金	18,130,046	46,530	-	-
電子記録債権	986,866	-	-	-
合 計	27,109,429	46,530	-	-

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	6,483,366	-	-	-
受取手形及び売掛金	17,154,676	16,173	-	-
電子記録債権	893,168	-	-	-
合 計	24,531,211	16,173	-	-



## (注4) 社債、長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債	-	-	-	-	250,000	-
長期借入金 (1年内返済予定 の長期借入金を 含む)	8,025,463	3,272,875	7,422,870	1,671,597	1,297,731	1,520,710
リース債務	570,306	309,726	213,889	107,683	48,081	7,621
合計	8,595,769	3,582,602	7,636,760	1,779,281	1,595,813	1,528,331

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
社債	-	-	-	250,000	-	-
長期借入金 (1年内返済予定 の長期借入金を 含む)	5,507,330	7,769,746	3,120,245	1,646,379	1,242,831	1,287,499
リース債務	437,576	348,776	230,501	133,719	51,519	5,887
合計	5,944,906	8,118,522	3,350,747	2,030,098	1,294,351	1,293,386

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	1,334,160	784,863	549,296
小計	1,334,160	784,863	549,296
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	99,530	130,426	30,896
小計	99,530	130,426	30,896
合計	1,433,690	915,290	518,400

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

区分	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	755,564	519,841	235,722
小計	755,564	519,841	235,722
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	271,122	333,416	62,293
小計	271,122	333,416	62,293
合計	1,026,687	853,258	173,428

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位:千円)

区分	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	230,958	174,765	-

3 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、有価証券について32,004千円(その他有価証券の株式32,004千円)減損処理をおこなっております。

## (デリバティブ取引関係)

## 1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

商品関連

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

	デリバティブ取引の種類等	契約額等	契約額のうち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	オイルカラー取引	56 (千バレル)	- (千バレル)	7,762	7,762

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価額等に基づき算定しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

	デリバティブ取引の種類等	契約額等	契約額のうち1年超	時価	評価損益
市場取引以外の取引	オイルカラー取引	42 (千バレル)	- (千バレル)	102,751	102,751

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価額等に基づき算定しております。

## 2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1)金利関連

前連結会計年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価	当該時価の算定方法
金利スワップの原則処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	長期借入金	3,000,000	-	32,728	(注)

(注) 金利スワップの原則処理によるものは、主要金融機関から提示された価額等に基づき算出しております。

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価	当該時価の算定方法
金利スワップの原則処理	金利スワップ取引 支払固定・ 受取変動	短期借入金	900,000	-	13,856	(注)

(注) 金利スワップの原則処理によるものは、主要金融機関から提示された価額等に基づき算出しております。

## (2)商品関連

前連結会計年度(2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額のうち1年超	時価	当該時価の算定方法
原則的処理方法	原油カラー取引	軽油仕入価格	87 (千バレル)	- (千バレル)	205,702	(注)
原則的処理方法	原油スワップ取引 支払固定・ 受取変動	軽油仕入価格	42 (千バレル)	- (千バレル)	15,953	(注)
合計			129 (千バレル)	- (千バレル)	221,655	

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

## (退職給付関係)

## 1 採用している退職給付制度の概要

一部の連結子会社は、確定給付型の制度として、確定給付企業年金制度および退職一時金制度を設けております。確定給付企業年金制度と退職一時金制度および確定拠出年金制度を採用し、連結子会社17社中3社は確定給付企業年金制度、4社は退職一時金制度を採用しております。

なお、一部の連結子会社が有する確定給付企業年金制度および退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債および退職給付費用を計算しております。

## 2 確定給付制度

## (1)退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
退職給付債務の期首残高	6,636,071千円	6,492,042千円
勤務費用	304,987 "	262,743 "
利息費用	31,104 "	23,941 "
数理計算上の差異の発生額	176,102 "	51,305 "
退職給付の支払額	301,824 "	346,163 "
その他	2,193 "	- "
退職給付債務の期末残高	6,492,042千円	6,483,870千円

## (2)年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
年金資産の期首残高	2,595,657千円	2,759,850千円
期待運用収益	52,431 "	48,263 "
数理計算上の差異の発生額	4,041 "	185,331 "
事業主からの拠出額	263,121 "	213,286 "
退職給付の支払額	147,318 "	171,589 "
年金資産の期末残高	2,759,850千円	2,664,478千円

## (3)退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
積立年金制度の退職給付債務	4,160,936千円	4,159,529千円
年金資産	2,759,850 "	2,664,478 "
	1,401,086 "	1,495,051 "
非積立型制度の退職給付制度	2,331,106 "	2,324,340 "
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,732,192 "	3,819,391 "
退職給付に係る負債	3,766,544千円	3,853,730千円
退職給付に係る資産	34,351 "	34,338 "
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	3,732,192千円	3,819,391千円

## (4)退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
勤務費用	304,987千円	262,743千円
利息費用	31,104 "	23,941 "
期待運用収益	52,431 "	48,263 "
数理計算上の差異の費用処理	93,149 "	123 "
過去勤務費用の費用処理額	2,450 "	- "
確定給付制度に係る退職給付費用	379,259千円	238,298千円

## (5)退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
数理計算上の差異	207,131千円	219,272千円
過去勤務費用	8,326 "	5,876 "
その他	- "	5 "
合計	198,804千円	225,143千円

## (6)退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
未認識数理計算上の差異	48,524千円	267,791千円
未認識過去勤務費用	38,674 "	32,798 "
合計	9,850千円	234,993千円

## (7)年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
債券	30%	30%
株式	30%	30%
現金及び預金	3%	3%
その他	37%	37%
合計	100%	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (8)数理計算上の計算基礎に関する事項

## 当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
割引率	0.40～0.57%	0.34～0.50%
長期期待運用収益率	2.00%	2.00%

## 3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度357,327千円、当連結会計年度359,216千円でありました。

## (税効果会計関係)

## 1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日現在)	当連結会計年度 (2020年3月31日現在)
<b>繰延税金資産</b>		
貸倒引当金	45,753千円	39,890千円
貸倒損失	4,785 "	3,716 "
賞与引当金	16,709 "	12,469 "
未払事業税	69,965 "	18,808 "
繰越欠損金	31,638 "	31,750 "
有価証券評価損	81,983 "	82,036 "
出資金評価損	26,888 "	26,888 "
退職給付に係る負債	1,301,024 "	1,345,254 "
役員退職慰労引当金	269,121 "	250,557 "
未払確定拠出年金	8,637 "	8,597 "
未払車両事故費	25,054 "	28,903 "
資産除去債務	96,608 "	97,693 "
減損損失	326,227 "	367,702 "
繰延ヘッジ損益	13,875 "	80,687 "
その他	127,150 "	126,604 "
<b>繰延税金資産小計</b>	<b>2,445,426 "</b>	<b>2,521,561 "</b>
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	31,638 "	31,750 "
将来減算一時差異の合計に係る評価性引当額	736,763 "	753,545 "
<b>評価性引当額小計</b>	<b>768,401 "</b>	<b>785,295 "</b>
<b>繰延税金資産合計</b>	<b>1,677,024 "</b>	<b>1,736,265 "</b>
<b>繰延税金負債</b>		
固定資産圧縮積立金	2,796,213 "	2,731,851 "
その他有価証券評価差額金	160,997 "	53,556 "
固定資産圧縮特別勘定積立金	499,489 "	489,818 "
資産除去債務	38,725 "	34,872 "
時価評価による評価差額	7,153,936 "	7,153,936 "
その他	2,757 "	5,491 "
<b>繰延税金負債合計</b>	<b>10,652,120 "</b>	<b>10,469,526 "</b>
<b>繰延税金資産または繰延税金負債( )の純額</b>	<b>8,975,095 "</b>	<b>8,733,261 "</b>



## 2 再評価に係る繰延税金負債の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日現在)	当連結会計年度 (2020年3月31日現在)
再評価に係る繰延税金負債		
再評価に係る繰延税金負債	1,528,463千円	1,498,742千円
再評価に係る繰延税金負債	1,528,463 "	1,498,742 "

## 3 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2019年3月31日現在)	当連結会計年度 (2020年3月31日現在)
法定実効税率	34.3%	34.2%
(調整)		
住民税均等割等	3.9 "	9.4 "
評価性引当額の計上による影響	7.4 "	1.3 "
交際費等永久に損金に算入されない項目	3.4 "	6.0 "
税額控除額	2.0 "	- "
連結除外による影響	6.8 "	- "
過年度法人税等	- "	3.8 "
その他	0.6 "	0.5 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	38.4 "	55.4 "

## (資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

## (1) 当該資産除去債務の概要

一部の連結子会社の建物の一部にアスベスト含有建材が使用されており、当該資産の除去に係る費用、および不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務に係る費用であります。

## (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を建物の耐用年数に応じて5年～47年と見積り、割引率は国債の利回り0.564%～2.300%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

## (3) 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
期首残高	288,414千円	282,362千円
時の経過による調整額	2,527 "	2,547 "
資産除去債務の履行による減少額	6,487 "	- "
その他増減額 ( は減少 )	2,092 "	- "
期末残高	282,362千円	284,910千円

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## 1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、提出会社においては純粋持株会社であり、連結子会社においては特別積合せ運送事業による輸送サービスやロジスティクス事業による保管・荷役等のサービスおよび一般貨物自動車運送事業による区域輸送サービス等の物流関連事業活動、自動車販売および同販売に関連した部品販売並びに修理業を行う自動車販売事業ならびに不動産賃貸または売買を行う不動産事業を中心に行っております。その他にも、コンピュータ関連機器の販売および燃料の販売等の事業を展開しております。

従って、当社グループは「物流関連事業」、「自動車販売事業」および「不動産事業」の3つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの製品およびサービスの種類は次のとおりであります。

報告セグメント	製品およびサービスの種類
物流関連事業	特別積合せ運送事業による貨物輸送、一般貨物事業による貨物輸送、倉庫業、荷造梱包業、貨物利用運送事業
自動車販売事業	三菱ふそうトラック・バス(株)製のトラック・バスの販売、同関連部品販売並びに修理業等 三菱自動車工業(株)製の乗用車の販売および修理業等 中古自動車の販売および輸出業
不動産事業	不動産賃貸業、不動産売買および賃貸借の仲介業等

## 2. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。セグメント間の内部収益および振替高は市場実勢価格に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額
	物流関連 事業	自動車販売 事業	不動産 事業	計			
営業収益							
外部顧客への営業収益	80,511,370	27,781,351	141,973	108,434,695	1,799,395	-	110,234,091
セグメント間の内部 営業収益または振替高	21,101	1,710,419	481,834	2,213,355	1,330,698	3,544,053	-
計	80,532,472	29,491,770	623,808	110,648,051	3,130,094	3,544,053	110,234,091
セグメント利益	2,448,813	181,421	227,726	2,857,962	229,225	283,994	2,803,193
セグメント資産	76,026,454	33,501,351	5,915,150	115,442,956	1,415,068	905,755	115,952,269
セグメント負債	55,901,477	25,285,508	530,307	81,717,294	902,721	714,153	81,905,861
その他の項目							
減価償却費	1,962,419	780,077	147,057	2,889,554	18,717	-	2,908,271
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	7,362,812	4,112,083	3,199	11,478,096	11,545	-	11,489,641

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連事業、燃料販売事業、車体製造販売事業を含んでおります。

2. 「その他」の営業収益には、当社が純粋持株会社としてグループ会社から受け取った配当金を含めており、営業収益およびセグメント利益に与える影響は202,332千円であります。

3. 「調整額」は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の「調整額」 283,994千円は、セグメント間取引消去額であります。

(2) セグメント資産の「調整額」 905,755千円は、純粋持株会社の資産12,531,110千円、セグメント間債権債務消去等 13,436,866千円であります。

(3) セグメント負債の「調整額」 714,153千円は、純粋持株会社の負債12,284,281千円、セグメント間債権債務消去等 12,998,434千円であります。

4. 減価償却費、有形固定資産および無形固定資産の増加額には、長期前払費用と同費用に係る償却費が含まれております。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	調整額 (注) 2	連結 財務諸表 計上額
	物流関連 事業	自動車販売 事業	不動産 事業	計			
営業収益							
外部顧客への営業収益	79,140,419	27,949,936	229,790	107,320,145	1,669,199	-	108,989,345
セグメント間の内部 営業収益または振替高	33,230	2,139,465	481,968	2,654,665	1,388,774	4,043,440	-
計	79,173,649	30,089,401	711,759	109,974,810	3,057,974	4,043,440	108,989,345
セグメント利益	817,986	457,272	205,907	1,481,165	243,218	25,959	1,698,424
セグメント資産	76,667,074	32,701,363	5,813,740	115,182,177	1,345,925	731,296	115,796,806
セグメント負債	56,663,119	24,454,787	520,588	81,638,496	600,461	380,923	81,858,034
その他の項目							
減価償却費	1,917,226	640,460	141,293	2,698,980	17,780	-	2,716,760
有形固定資産および 無形固定資産の増加額	4,756,575	3,788,280	1,080	8,545,936	4,029	-	8,549,965

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、情報関連事業、燃料販売事業を含んでおります。

2. 「その他」の営業収益には、当社が純粋持株会社としてグループ会社から受け取った配当金を含めており、営業収益およびセグメント利益に与える影響は269,421千円であります。

3. 「調整額」は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の「調整額」 25,959千円は、セグメント間取引消去額であります。

(2) セグメント資産の「調整額」 731,296千円は、純粋持株会社の資産13,407,826千円、セグメント間債権債務消去等 14,139,123千円であります。

(3) セグメント負債の「調整額」 380,923千円は、純粋持株会社の負債13,059,744千円、セグメント間債権債務消去等 13,440,667千円であります。

4. 減価償却費、有形固定資産および無形固定資産の増加額には、長期前払費用と同費用に係る償却費が含まれております。

## 【関連情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

国内の営業収益が、本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

国内に所在している有形固定資産の額が連結貸借対照表の有形固定資産の額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書上の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 営業収益

国内の営業収益が、本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が連結損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

国内に所在している有形固定資産の額が連結貸借対照表の有形固定資産の額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、連結損益計算書上の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	全社・消去	合計
	物流関連 事業	自動車販売 事業	不動産 事業	計			
減損損失	10,583	-	-	10,583	3,028	-	13,611

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他	全社・消去	合計
	物流関連 事業	自動車販売 事業	不動産 事業	計			
減損損失	16,047	247,705	-	263,753	-	-	263,753

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

## 関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び個人主要株主(個人の場合に限る)等

前連結会計年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	武藤幸規	-	-	提出会社 代表取締役	直接6.91	-	被債務保証 (注1)	4,246,411	-	-
							被債務保証 (注2)	113,506	-	-

取引条件および取引条件の決定方針等

(注1) 三菱ふそうトラック・バス㈱仕入債務について、債務保証を受けているものであります。

(注2) JXTGエネルギー㈱の仕入債務について、債務保証を受けているものであります。

なお、当該債務保証について、保証料の支払および担保の提供は行っておりません。

当連結会計年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	武藤幸規	-	-	提出会社 代表取締役	直接6.71	-	被債務保証 (注)	1,912,165	-	-

取引条件および取引条件の決定方針等

(注) 三菱ふそうトラック・バス㈱仕入債務について、債務保証を受けているものであります。

なお、当該債務保証について、保証料の支払および担保の提供は行っておりません。



## (1株当たり情報)

## 1. 1株当たり情報

	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり純資産額	2,493.47円	2,485.88円
1株当たり当期純利益金額	131.91円	42.06円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がありませんでしたので記載しておりません。1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
1株当たり当期純利益金額	131.91円	42.06円
(算定上の基礎)		
連結損益計算書上の親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,794,641	572,168
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,794,641	572,168
普通株式の期中平均株式数(千株)	13,604	13,602

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当連結会計年度 (2020年3月31日)
1株当たり純資産額	2,493.47円	2,485.88円
(算定上の基礎)		
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	34,046,407	33,938,771
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	126,305	129,059
(うち非支配株主持分(千円))	126,305	129,059
普通株式に係る純資産額(千円)	33,920,102	33,809,712
普通株式の発行済株式数(千株)	13,618	13,618
普通株式の自己株式数(千株)	15	17
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通 株式の数(千株)	13,603	13,600

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
山形三菱自動車販売株式会社	第1回無担保社債	2016年9月16日	170,000	170,000 (-)	0.45	無担保	2023年9月15日
山形三菱自動車販売株式会社	第2回無担保社債	2016年9月16日	80,000	80,000 (-)	0.45	無担保	2023年9月16日
合計			250,000	250,000 (-)			

(注) 1. 「当期末残高欄の(内書)は、1年内償還予定の金額であります。

2. 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
-	-	-	250,000	-

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	13,272,000	15,772,000	0.91	
1年内返済予定の長期借入金	8,025,463	5,507,330	1.15	
1年以内に返済予定のリース債務	570,306	437,576	-	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	15,185,786	15,066,703	1.15	2021年4月30日～ 2027年8月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	687,002	770,404	-	2021年4月30日～ 2026年11月26日
計	37,740,558	37,554,014		

(注) 1. 「平均利率」については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。

2. 長期借入金およびリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額は以下の通りであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	7,769,746	3,120,245	1,646,379	1,242,831
リース債務	348,776	230,501	133,719	51,519

## 【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債および純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

## (2) 【その他】

該当事項はありません。

## 2 【財務諸表等】

## (1) 【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	268,179	308,372
前払費用	1 709	1 575
未収入金	1 41,346	1 54,600
関係会社短期貸付金	1 2,276,160	1 1,320,460
未収収益	1 10,968	1 10,643
流動資産合計	2,597,364	1,694,652
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品	630	630
減価償却累計額	414	468
工具、器具及び備品(純額)	216	162
有形固定資産合計	216	162
無形固定資産		
ソフトウェア	159	101
無形固定資産合計	159	101
投資その他の資産		
関係会社株式	13,823,541	13,823,541
出資金	1	1
関係会社長期貸付金	1 9,933,370	1 11,712,910
投資その他の資産合計	23,756,912	25,536,452
固定資産合計	23,757,287	25,536,715
資産合計	26,354,652	27,231,368

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	2,276,160	1,320,460
未払金	2,488	816
未払費用	14,549	14,846
未払法人税等	1,290	1,611
未払消費税等	992	2,488
預り金	300	371
流動負債合計	2,295,781	1,340,594
固定負債		
長期借入金	9,933,370	11,712,910
関係会社長期借入金	50,000	-
役員退職慰労引当金	5,130	6,240
固定負債合計	9,988,500	11,719,150
負債合計	12,284,281	13,059,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,000,000	2,000,000
資本剰余金		
資本準備金	500,000	500,000
その他資本剰余金	11,277,317	11,277,317
資本剰余金合計	11,777,317	11,777,317
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	298,606	400,963
利益剰余金合計	298,606	400,963
自己株式	5,553	6,657
株主資本合計	14,070,370	14,171,624
純資産合計	14,070,370	14,171,624
負債純資産合計	26,354,652	27,231,368

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)	当事業年度 (自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日)
営業収益	1 288,732	1 355,821
営業総利益	288,732	355,821
販売費及び一般管理費	1, 2 89,974	1, 2 94,075
営業利益	198,758	261,746
営業外収益		
受取利息	1 131,305	1 147,780
受取手数料	1 -	23,600
その他	920	1,379
営業外収益合計	132,225	172,759
営業外費用		
支払利息	1 126,219	1 142,500
支払手数料	-	23,600
その他	3	986
営業外費用合計	126,223	167,086
経常利益	204,760	267,419
特別利益		
関係会社株式売却益	3,706	-
特別利益合計	3,706	-
税引前当期純利益	208,467	267,419
法人税、住民税及び事業税	1,290	1,818
法人税等合計	1,290	1,818
当期純利益	207,177	265,600

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,000,000	500,000	11,277,317	11,777,317
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	2,000,000	500,000	11,277,317	11,777,317

	株主資本				純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
	繰越利益剰余金				
当期首残高	227,492	227,492	4,508	14,000,302	14,000,302
当期変動額					
剰余金の配当	136,063	136,063		136,063	136,063
当期純利益	207,177	207,177		207,177	207,177
自己株式の取得			1,045	1,045	1,045
当期変動額合計	71,113	71,113	1,045	70,068	70,068
当期末残高	298,606	298,606	5,553	14,070,370	14,070,370

当事業年度(自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	2,000,000	500,000	11,277,317	11,777,317
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
自己株式の取得				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	2,000,000	500,000	11,277,317	11,777,317

	株主資本				純資産合計
	利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
	その他利益剰余金	利益剰余金合計			
	繰越利益剰余金				
当期首残高	298,606	298,606	5,553	14,070,370	14,070,370
当期変動額					
剰余金の配当	163,242	163,242		163,242	163,242
当期純利益	265,600	265,600		265,600	265,600
自己株式の取得			1,104	1,104	1,104
当期変動額合計	102,357	102,357	1,104	101,253	101,253
当期末残高	400,963	400,963	6,657	14,171,624	14,171,624



【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準および評価方法

関係会社株式

移動平均法による原価法によっております。

2 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

主なものは工具、器具及び備品であり、定率法を採用しております。

なお、耐用年数は8年としております。

無形固定資産

主なものはソフトウェアであり、定額法を採用しております。

なお、耐用年数は5年としております。

3 引当金の計上基準

役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく事業年度末要支給額を計上しております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税および地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## (貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権および金銭債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
短期金銭債権	2,287,290千円	1,331,268千円
短期金銭債務	327 "	178 "
長期金銭債権	9,933,370 "	11,712,910 "
長期金銭債務	50,000 "	- "
計	12,270,988千円	13,044,356千円

## (損益計算書関係)

1 関係会社との取引高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
営業取引による取引高		
営業収益	288,732千円	355,821千円
販売費及び一般管理費	25,800 "	26,300 "
営業取引以外の取引による取引高		
営業外収益	131,302千円	160,775千円
営業外費用	2,000 "	268 "

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)	当事業年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)
役員報酬	17,641千円	18,764千円
役員退職慰労引当金繰入額	1,700 "	1,930 "
人件費	3,860 "	780 "
租税公課	3,344 "	10,352 "
旅費及び通信費	10,247 "	5,928 "
支払手数料	49,512 "	52,340 "
割合		
販売費	%	%
一般管理費	100%	100%

(有価証券関係)

前事業年度(2019年3月31日)

(単位:千円)

区 分	貸借対照表計上額
関係会社株式	13,823,541

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローが約定されておりません。  
したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

当事業年度(2020年3月31日)

(単位:千円)

区 分	貸借対照表計上額
関係会社株式	13,823,541

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローが約定されておりません。  
したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	工具、器具及び備品	216			54	162	468
	計	216			54	162	468
無形固定資産	ソフトウェア	159			58	101	
	計	159			58	101	

## 【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
役員退職慰労引当金	5,130	1,930	820	6,240

## (2) 【主な資産および負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	400株
株式の名義書換え	
取扱場所	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
買取手数料	無料
公告掲載方法	東京都において発行する日本経済新聞および山形市において発行する山形新聞に掲載します。
株主に対する特典	該当事項はありません。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

#### (1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度 第7期(自 2018年4月1日 至 2019年3月31日) 2019年6月28日東北財務局長に提出

#### (2) 半期報告書の訂正報告書

訂正報告書 (第7期中(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)半期報告書の訂正報告書)

2019年12月26日東北財務局長に提出

#### (3) 有価証券報告書の訂正報告書

訂正報告書 (上記(1)有価証券報告書の訂正報告書)2019年12月26日東北財務局長に提出

#### (4) 半期報告書

事業年度 第8期中(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日) 2019年12月27日東北財務局長に提出

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

2022年6月24日

ディー・ティー・ホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士

奥津佳樹

業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているディー・ティー・ホールディングス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の訂正後の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ディー・ティー・ホールディングス株式会社及び連結子会社の2020年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の連結財務諸表に対して2020年6月25日に監査報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の連結財務諸表に対して本監査報告書を提出する。

### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。



## 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

## 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- 
- (注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2020年6月25日

ディー・ティー・ホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

東京事務所

指定有限責任社員

公認会計士

板谷宏之

業務執行社員

指定有限責任社員

公認会計士

奥津佳樹

業務執行社員

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているディー・ティー・ホールディングス株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第8期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ディー・ティー・ホールディングス株式会社の2020年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。